



新国立劇場

2012年1月

新国立劇場 開場15周年

2012/2013シーズン

OPERA

オペラ



Contents

オペラ芸術監督 尾高忠明	2
<hr/>	
2012/2013シーズン オペラ ラインアップ	3
ピーター・グライムズ 新制作	4
トスカ	10
セビリアの理髪師	15
タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	21
愛の妙薬	28
アイーダ	34
魔笛	40
ナブッコ 新制作	46
コジ・ファン・トゥッテ	52
夜叉ヶ池 新制作 委嘱作品	58
<hr/>	
平成24年度公演	64
平成24年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 ラ・ボエーム	65
平成24年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演 愛の妙薬	68
尾高忠明芸術監督による特別企画Ⅱ ドン・ジョヴァンニ (演奏会形式)	71
<hr/>	
公演一覧(1997.10～2012.6)	74

※本資料中のスタッフ・キャストはすべて予定であり、変更される可能性がございます。
何卒ご承知おきください。

2012/2013 シーズン オペラ



オペラ芸術監督
Artistic Director (Opera)

尾高 忠明 Otaka Tadaaki

れたオペラ作品の中で、『アルバート・ヘリング』と共に私が大好きな作品です。英国と日本は同じ島国で、教育、社会制度など共通点が数多くありますから、この貧しい漁村での“つまはじき”的なストーリーは日本人の感覚からも共感するところが多いのではないかと思います。ワーグナー作品は、2011/2012 シーズンの『さまよえるオランダ人』(3月)『ローエングリン』(6月)に続き、2012/2013 シーズンには『タンホイザー』が、ヴェルディ作品には『オテロ』(4月)に続いて、開場記念公演としての1998年初演以来、節目を迎える毎に上演してきた大人気演目『アイダ』と、新制作となる『ナブッコ』を選びました。そして、世界初演となる泉鏡花原作の創作委嘱作品『夜叉ヶ池』でシーズンの幕を下ろします。新国立劇場オペラ2012/2013 シーズンに、どうぞご期待ください。

〈プロフィール〉

1947年鎌倉生まれ。桐朋学園大学で齊藤秀雄氏に指揮法を師事したほか、作曲、理論、ホルンを学んだ。70年桐朋学園大学を卒業、第2回民音指揮者コンクールで第2位に入賞。71年にNHK交響楽団を指揮してデビュー。72年オーストリア政府から奨学金を得てウィーン国立アカデミーに留学、ハンス・スワロフスキーに師事、さらにオペラをシュパンナーゲルに学んだ。

74年～91年東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者、81年～86年札幌交響楽団正指揮者、92年～98年読売日本交響楽団常任指揮者を務めた。84、89年東京フィルハーモニー交響楽団、93、97年には読売日本交響楽団のヨーロッパ公演を成功に導いた。87年にBBCウェールズ交響楽団首席指揮者に就任、翌年には同団を率いてロンドン・プロムスにデビューした。英国内はもとよりヨーロッパ各地、ロシア、そして2度の日本公演と北米公演を行い好評を博した。ロンドン・サンデー・タイムズ紙は、「オーケストラとの8年間、彼はウェールズで奇跡を行った」と書いている。96年からは桂冠指揮者となり、引き続き数多くの指揮を行っている。

95年には紀尾井シンフォニエッタ東京のミュージカル・アドバイザー／首席指揮者に就任、2000年には同団初のヨーロッパ・ツアーを敢行、オランダ、オーストリア各地で絶賛された。また1998年には札幌交響楽団ミュージック・アドバイザー／常任指揮者に就任、2001年10月、英国ツアーをロンドン、バーミンガム、エディンバラほかで全7公演、音楽監督就任後の05年9月には韓国公演を行い大絶賛を博した。

その他、国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、バーミンガム市交響楽団、ハレ管弦楽団、ボーンマス交響楽団、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、ストラズブル・フィルハーモニー管弦楽団、バンベルク交響楽団、ワルシャワフィルハーモニー管弦楽団、オスロ交響楽団、ベルゲンフィルハーモニー管弦楽団、メルボルン交響楽団、シドニー交響楽団、オレゴン交響楽団、香港フィルハーモニー管弦楽団等世界各地のオーケストラへ客演している。

オペラにおいては、1977年の二期会公演『フィデリオ』をはじめ、80年代には同じく二期会による『こうもり』『トスカ』『タンホイザー』、関西二期会『カルメン』『魔弾の射手』、民音オペラ『蝶々夫人』、91年に英国のウェールズ・ナショナル・オペラ『サロメ』、98年には読売日本交響楽団でコンサート形式『ピーター・グライツ』など数多くの公演を指揮している。2008年9月には札幌交響楽団でコンサート形式の『ピーター・グライツ』を指揮、各方面から高い評価を得た。

また武満徹、細川俊夫、松村禎三、三善晃など日本人作曲家の作品の初演も数多く手掛けている。レコーディングにも精力的で、これまでBBCウェールズ交響楽団等とNimbus、BIS、CHANDOS、カメラータ・トウキョウなどに数多くの優れた録音を残している。近年BBCウェールズ交響楽団と録音した武満作品集、グラズノフの交響曲全集、2007年にリリースした札幌交響楽団とのドヴォルザーク：交響曲第8番／第9番、08年同団とのエルガー：交響曲第3番／行進曲『威風堂々』第6番(ペイン補完)のアルバムはいずれも高い評価を得ている。

1991年度第23回サントリー音楽賞受賞。93年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号を、ウェールズ大学より名誉博士号を、97年英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与された。さらに99年には英国エルガー協会より、エルガー音楽の普及に貢献したとして、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。

現在、NHK交響楽団正指揮者(2010年1月～)、札幌交響楽団音楽監督(04年5月～)、BBCウェールズ交響楽団(現BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団)桂冠指揮者(1996年1月～)、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者(91年4月～)、読売日本交響楽団名誉客演指揮者(98年4月～)、紀尾井シンフォニエッタ東京桂冠名誉指揮者(2003年9月～)を務めるほか、10年1月にメルボルン交響楽団の首席客演指揮者に就任。08年9月からは新国立劇場オペラ芸術参与を、09年9月からは同芸術監督代行を務めた。10年9月に同芸術監督に就任。また東京藝術大学指揮科主任教授、相愛大学音楽学部客員教授として後進の指導に当たっている。

大好きな二人のリヒャルトの作品と、様々な愛の形を描いた作品を集めた1シーズン目。『アラベッラ』から『椿姫』まで、好調な滑り出しに、大変喜んでいたところに3月の大震災で『マノン・レスコー』は中止となり、続く後半は原子力災害の影響に振り回されてしまいました。『イル・トロヴァトーレ』で開幕した2シーズン目も、この影響は未だ尾を引いています。このような状況下で、私たちが今やるべきことは何なのでしょう。それは、残念ながら降板となったアーティストたちへの苦情ではなく、私たちの日本の現状を正面から見据え、再認識した上で、文化の役割は何なのか、劇場は何をしていくべきなのかを真剣に考えていく事だと信じています。日本の状況の正しい情報を取得し、そして海外アーティストに伝え続ける努力も必要です。一方で、震災後、必然的に邦人歌手の活躍の場が増えました。以前から新国立劇場オペラに邦人歌手を採用していきなかった私にとっては、これは嬉しい結果と言えます。

さて、2012/2013シーズンの演目には2013年がワーグナー、ヴェルディが生誕200年、ブリテンが100周年の記念年、さらに2012年が新国立劇場15周年ということもあり、周年を迎えた作曲家の傑作と、心からお楽しみいただけるスタンダードな名作や人気演目を取り揃えました。シーズン開幕を飾る『ピーター・グライツ』は、英国人作曲家ブリテンの優

2012年1月

2012/2013シーズン オペラ ラインアップ

(新制作3演目/レパートリー7演目 合計10演目52公演)

2012.10

ピーター・グライムズ **新制作**

Peter Grimes | B. ブリテン
5回公演

2012.11

トスカ

Tosca | G. プッチーニ
5回公演

2012.11 ~ 12

セビリアの理髪師

Il Barbiere di Siviglia | G. ロッシーニ
5回公演

2013.1 ~ 2

タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf Wartburg | R. ワグナー
5回公演

2013.1 ~ 2

愛の妙薬

L'elisir d'amore | G. ドニゼッティ
5回公演

2013.3

アイーダ

Aida | G. ヴェルディ
7回公演

2013.4

魔笛

Die Zauberflöte | W.A. モーツァルト
4回公演

2013.5 ~ 6

ナブッコ **新制作**

Nabucco | G. ヴェルディ
6回公演

2013.6

コジ・ファン・トゥッテ

Così fan tutte | W.A. モーツァルト
5回公演

2013.6

夜叉ヶ池 **新制作** **委嘱作品**

Yashagaike (Demon Pond) | 香月 修
5回公演 中劇場

ピーター・グライムズ

2012.10/2 ~ 14

新制作
New Production

Peter Grimes

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕 (英語上演 / 字幕付)

初演: 1945年6月7日 サドラーズ・ウェルズ劇場

作曲: ベンジャミン・ブリテン Benjamin Britten (1913-1976)

台本: モンタギュー・スレイター Montagu Slater

荒涼とした海と胸に迫る人間ドラマ。20世紀イギリス・オペラの傑作がついに登場。

演目選定にあたって

20世紀の偉大なオペラ作曲家の一人に数えられ、2013年には生誕100周年を迎えるベンジャミン・ブリテンの『ピーター・グライムズ』で尾高芸術監督による第3シーズンは幕を開けます。英国人作曲家の中でブリテンは圧倒的にドラマ重視の特徴を持っています。彼が書き残したオペラの中で2作目となる『ピーター・グライムズ』は、彼の代表作であると同時に、日本人に理解しやすい作品です。漁村を舞台とした閉塞的な社会に生きる主人公たちの過酷な運命。この物語について尾高芸術監督は、悪役ととらえられがちなピーター・グライムズを、悪役ではなく彼を取り巻く村民の在り方が問題なのだと語っています。イングランド東部サフォーク州のオールドバラで、パートナーとして半生をともに過ごしたテノール歌手ピーター・ピアーズとの同性愛のために、周囲から冷たい目で見られていた作曲家自身の境遇と重ね合わせて考えることができるからです。

新国立劇場オペラ初のイギリス・オペラで注目のタイトルロール役を演ずるのは、ヘルデン・テノールとして世界で活躍するスケルトン。主人公の唯一の理解者であるエレン役には本役をレパートリーとして活躍するイギリス人ソプラノのグリットン。そして国内外の実力派歌手たちがアンサンブルを固めます。さらにポイントとなるのが、新国立劇場では08年『軍人たち』公演で大きな話題となったデッカーの演出で、ベルギー王立モネ劇場から舞台装置・衣裳・小道具をレンタルし上演します。数ある演出の中でも、1994年に初演されたこの演出が、最も作品の深いところを伝えていると尾高芸術監督が高く評価したプロダクションです。2004年3月にはモネ劇場の音楽監督を務めていた大野和士が指揮して好評を博しており、同年7月には英国ロイヤルオペラで上演され、翌年のローレンス・オリヴィエ賞の新作オペラ部門にノミネートされた秀作です。

作品解説

20世紀イギリスを代表する作曲家ブリテン。イギリスでは、イングランドが黄金期を迎えた17世紀エリザベス朝時代に、優れた劇音楽を残したバロック期のパーセルからしばらく大物作曲家が現れず、19世紀になってやっと行進曲『威風堂々』等で有名なエルガーが登場します。国際的な名声を獲得したブリテンの成功作『ピーター・グライムズ』は、第二次大戦中、連合軍がドイツに勝利したのを機に、閉館となっていたロンドンのサドラーズ・ウェルズ劇場の再開記念として上演され、イギリス・オペラの復興ともパーセルの再来とも言われました。ブリテンと同じサフォーク州オールドバラ出身の詩人ジョージ・クラブ『町』(The Borough)の一節である『ピーター・グライムズ』が原作で、モンタギュー・スレイターの台本によるプロローグ付きの三幕からなるこの悲劇は、世界的な注目を集め、『戦争レクイエム』(1961年初演)とともに世界各地で上演されています。高い技法を駆使した完成度の高い現代音楽でありながら、メロディーはあくまで親しみやすく、言葉を重視しながら

ら人物の心情やスケール感のある情景を音楽で表現しています。閉鎖的な社会で人間関係にきしみ音をたてながら生きる不器用な男の心理や、冷たく荒れた北の海が目浮かぶような劇的な音楽が魅力です。また、作品中、場面をつなぐ6つの間奏曲は、ブリテンの手によって『4つの海の間奏曲』という絵画的色彩に富んだ管弦楽曲となり、演奏会でも頻繁に取り上げられています。晩年は生涯の伴侶となったテノール歌手ピアーズとともにオールドバラで過ごし、48年にオールドバラ音楽祭を創設。現在も毎年6月に開かれています。

あらすじ

1830年頃、イギリス東部の北海に面した漁村。集会所で漁師ピーター・グライムズの裁判が行われている。見習いの少年を連れて出た漁で、大漁を当てたが嵐に遭い少年を死なせてしまった罪に問われていた。ピーターは、偶然の事故であると無実を主張するが、普段から気性が激しく付き合い下手なピーターに対して、村人たちは疑惑の念を持っている。判定は事故死となるが、徒弟を受入れることを禁じられる。村の女教師で未亡人のエレンや、退役船長バルストロードがピーターを慰める。この事件以来、ピーターは村人たちから疎外されていたため、一人きりで漁もままならない状態となった。見かねたエレンは、孤児院からピーターの徒弟として少年を一人連れてくると、村のバブ“ボア亭”でピーターに受け渡す。ある日曜日、エレンはピーターの徒弟となった少年の衣服や体を見て不審に思いピーターに問いたが、彼は安息日にもかかわらず少年を連れて海に出ようとする。ピーターはエレンとの結婚を夢見ていたため、できる限り金を稼ごうとしていた。エレンや村人達の反対を押し切ったピーターは、家の裏手から崖づたいに海岸へ降りるよう少年に命じるが、少年はあやまって墜落死する。数日後、村人の中で、行方不明のままの少年もまたピーターに殺されたのではないかと噂が広がる。再び捜査が始まる。疲れ果てたピーターが現れる。バルストロードは、海の男らしく船と運命を共にせよと諭す。エレンは止めるが、ピーターは船を出す。翌朝、沈没船の知らせが村に届くが、これに関心を示す者はなく、何事もなかったかのように一日が始まる。



2003/2004シーズン モネ劇場公演より Photos by Johan Jacobs

B.ブリテン
ピーター・グライムズ

Peter Grimes / Benjamin Britten

全3幕〈英語上演／字幕付〉

指揮……………	リチャード・アームストロング
Conductor	Richard Armstrong
演出……………	ウィリー・デッカー
Production	Willy Decker
美術・衣裳……………	ジョン・マクファーレン
Scenery and Costume Design	John Macfarlane
ピーター・グライムズ ……	スチュアート・スケルトン
Peter Grimes	Stuart Skelton
エレン・オーフォード ……	スーザン・グリットン
Ellen Orford	Susan Gritton
バルストロード船長 ……	ジョナサン・サマーズ
Balstrode	Jonathan Summers
アーンティ ……	キャサリン・ウィン＝ロジャース
Auntie	Catherine Wyn-Rogers
姪1 ……	鵜木絵里
Niece 1	Unoki Eri
姪2 ……	平井香織
Niece 2	Hirai Kaori
ボブ・ボウルズ ……	高橋 淳
Bob Boles	Takahashi Jun
スワロー ……	久保和範
Swallow	Kubo Kazunori
セドリー夫人 ……	加納悦子
Mrs. Sedley	Kanoh Etsuko
ホレース・アダムス ……	望月哲也
Rev. Horace Adams	Mochizuki Tetsuya
ネッド・キーン ……	吉川健一
Ned Keene	Yoshikawa Kenichi
ホブソン ……	大澤 建
Hobson	Osawa Ken
	ほか
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

本公演は、ベルギー王立モネ劇場からのプロダクション・レンタルでの上演となります。

2012年10月2日(火) 6:30 11日(木) 2:00
 5日(金) 6:30 14日(日) 2:00
 8日(月・祝) 2:00
 オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 26,250円・A : 21,000円・B : 14,700円・C : 8,400円・D : 5,250円

【前売開始】2012年6月17日(日)

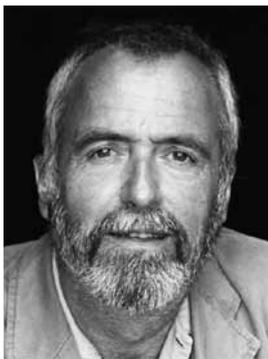
ピーター・グライムズ

Peter Grimes / Benjamin Britten

指揮：リチャード・アームストロング

Conductor : Richard Armstrong

イギリス・レスター生まれ。ケンブリッジのコーパス・クリスティ・カレッジのオルガン奨学生。1966年より英国ロイヤルオペラの音楽スタッフとしてショルティ、ジュリーニ、クレンペラーと仕事をする。73年から86年までウェールズ・ナショナル・オペラの音楽監督を務め、90年日本ツアーでの『サロメ』『ファルスタッフ』など国内外で数多くの作品を指揮。82年に『ペリー・バッド』で英国ロイヤルオペラにデビュー。スコティッシュ・オペラでは93年から音楽監督を務め、2004年まで毎年エディンバラ音楽祭に出演、『ニーベルングの指環』などいずれも好評を博した。他にもフランクフルト・オペラ、シャンゼリゼ劇場、バイエルン州立歌劇場、ジュネーヴ歌劇場、オーストラリア・オペラなど世界各地に出演。コンサート指揮者としても活躍しており、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ベルリン交響楽団、メルボルン交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団などを振っている。今後のオペラの予定としては、オーストラリア・オペラで『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『アイーダ』、オペラ・ノースで『フィデリオ』、イングリッシュ・ナショナル・オペラで『マクロブス事件』などがある。1993年に大英帝国勲章(CBE)を授与されている。新国立劇場初登場。



演出：ウィリー・デッカー

Production : Willy Decker

ケルン生まれ。ケルンのアルベルトウス・マグヌス大学でヴァイオリン、音楽学、文献学ならびに哲学を学び、さらにバリトン歌手、J.メッテルニヒに声楽レッスンを受ける。22歳でエッセン劇場の演出助手、その後ケルン歌劇場でノイゲバウアー、クプファー、ボネル、ハンベトといった著名演出家の助手を務めた後、1986年ケルン歌劇場の首席演出家に任命される。また、78年よりオペラ演出家としての活動も始め、ワグナーからイタリア・オペラ、現代オペラまで幅広い作品をドイツ各地の主要歌劇場や、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ベルギー王立歌劇場(モネ劇場)、ジュネーヴ歌劇場、ネザーランド・オペラ、ザルツブルク音楽祭、フィレンツェ五月音楽祭などで活躍している。ヘンツェの『ポリチーノ』、ピバロの『マクベス』、ライマンの『城』など現代作品の世界初演でも高く評価されている。2005年ザルツブルク音楽祭の『椿姫』はカルト的人気を博し、2011/2012シーズンにメトロポリタン歌劇場でも上演。09年から11年までルール・トリエンナーレの総裁を務めた。新国立劇場では08年『軍人たち』が上演され、日本オペラ史上に残る公演となった。

ピーター・グライムズ(漁夫)：スチュアート・スケルトン

Peter Grimes, a fisherman : Stuart Skelton

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州生まれ。次世代を担うヘルデンテノールの代表格としてメトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、チューリッヒ歌劇場など世界各地の一流歌劇場で活躍。『ローエングリン』と『バルジファル』タイトルロール、『ワルキューレ』ジークムント、『フィデリオ』フロレスタン、『影のない女』皇帝、『ヴォツェック』鼓手長、『魔弾の射手』マックス、『ルサルカ』王子、『道化師』カニオ、『カーチャ・カバノヴァー』ボリスなど幅広いレパートリーを持つ。『ピーター・グライムズ』タイトルロールは特に定評があり、2004年にフランクフルト・オペラでのロールデビュー以来、世界各地で出演。日本には02年NHK交響楽団の第九公演(大野和士指揮)にソリストとして出演。新国立劇場初登場。



ピーター・グライムズ

Peter Grimes / Benjamin Britten

エレン・オーフォード (寡婦、村の女教師) : スーザン・グリットン

Ellen Orford, a widow, schoolmistress of the Borough : Susan Gritton

イギリス・サリー州生まれ。オックスフォードとロンドンで植物学を学んだ後、声楽を学ぶ。イギリス歌曲での清楚で透き通った歌唱や、“ブリテン歌い”として高く評価されているリリック・ソプラノ。これまでにミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ネザーランド・オペラ、グラインドボーン音楽祭、オールドバラ音楽祭などに出演。『ピーター・グライムズ』エレン・オーフォード、『カルメル会修道女の対話』ブランシュ、『トゥーランドット』リュウ、『カルメン』ミカエラ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『イドメネオ』エレットラ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『利口な女狐の物語』タイトルロールなどをレパートリーとする。日本には2009年英国ロイヤルオペラ特別演奏会の『メサイア』で来日している。新国立劇場初登場。



バルストロード船長 (退役船長) : ジョナサン・サマーズ

Captain Balstrode, retired merchant skipper : Jonathan Summers



オーストラリア・メルボルン出身。2011年7月に英国ロイヤルオペラにて、今回新国立劇場で上演するデッカー演出『ピーター・グライムズ』と同じプロダクションのバルストロード船長を演じ、その深みのある熟練の演技で観客を魅了した。また、本年7月のイングリッシュ・ナショナル・オペラで『ピリー・バッド』レッドバーン副長を務めるなど、ブリテン作品の出演が続いており、今回の新国立劇場での公演においても大きな期待が寄せられている。モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニの解釈や役作りでも際立ち、世界的な称賛を得ている。

1974年渡英、翌75年にはケント・オペラ『リゴレット』(ジョナサン・ミラー演出)タイトルロールで本格的にオペラ・デビューし、好評を博す。この功績が英国ロイヤル・オペラとの契約につながり、76年~86年の間に『魔笛』パパゲーノ、『オテロ』イアーゴ、『ナブッコ』タイトルロールなど出演を重ねる。また、ゲスト歌手として『ローエングリン』王の伝令でバリ・オペラ座、『ドン・カルロ』ロドリゴでハンブルク州立歌劇場、『ラ・ボエーム』マルチェッロでメトロポリタン歌劇場、『フィガロの結婚』タイトルロールでバイエルン州立歌劇場など、世界の一流歌劇場で次々とデビューを飾り、その後もスカラ座、フェニーチェ歌劇場、ケルン歌劇場、モネ劇場、シカゴ・リリック・オペラ、オペラ・ノース、メルボルン・オペラ、ニュー・イスラエル・オペラなどに出演。イングリッシュ・ナショナル・オペラには定期的に出演し、これまでに『道化師』トニオ、『仮面舞踏会』レナート、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『バルジファル』アンフォルタスのほか、『リゴレット』『シモン・ボッカネグラ』『マクベス』『エウゲニー・オネーギン』などのタイトルロールを演じている。最近では、英国ロイヤルオペラで『ピーター・グライムズ』バルストロード船長や世界的な注目を集めた『テンペスト』(T. アデス作曲・指揮) セバスチャンのほか、オペラ・ノースにて人気英国人作曲家ダヴによる『ピノッキオの冒険』ジェペットや『スペードの女王』トムスキー、オペラ・オーストラリア『椿姫』ジェルモンなどに出演。今後の予定としてウェールズ・ナショナル・オペラ『利口な女狐の物語』森番、オペラ・オーストラリア『運命の力』ドン・カルロなどがある。日本には88年スカラ座来日公演『ラ・ボエーム』マルチェッロで来日している。クライバー、ショルティ、ハイティンク、ムーティ、サヴァリッシュ、アバドなど偉大な指揮者との共演も多い。録音も数多くリリースされており、バルストロード船長を歌った『ピーター・グライムズ』(デイヴィス指揮)はグラミー賞最優秀オペラ録音賞を受賞している。新国立劇場初登場。

アーンティ (ボア亭の女将) : キャサリン・ウイン＝ロジャース

Auntie, landlady of "The Boar" : Catherine Wyn-Rogers

イギリス出身。ロイヤル・カレッジ・オブ・ミュージックで学んだ後、E. キーラー、D. フォルラーノの下で研鑽を積む。これまでにウェールズ・ナショナル・オペラ、スコティッシュ・オペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭などで、品格と豊かな声量を持ち合わせたメゾソプラノ/アルトとして数多く出演している。レパートリーには、『蝶々夫人』スズキ、『ラインの黄金』と『ジークフリート』エルダ、『神々の黄昏』第一のノルン、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』マグダレーネ、『ペレアスとメリザンド』ジュヌヴィエーヴ、『ピーター・グライムズ』アーンティ、『ジョコンダ』チエカなどを持つ。今後の予定としては、ミュンヘンで『ラインの黄金』、イングリッシュ・ナショナル・オペラで『エフゲニ・オネーギン』のほか、『ピーター・グライムズ』でミラノ・スカラ座にデビュー予定。新国立劇場初登場。



ピーター・グライムズ

Peter Grimes / Benjamin Britten

ボブ・ボウルズ (漁夫、メソジスト教徒) : 高橋 淳

Bob Boles, fisherman and Methodist : Takahashi Jun

埼玉県出身。東京音楽大学卒業、同大学院及び二期会オペラスタジオマスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。2001年『ホフマン物語』で二期会オペラデビュー後、『イエヌーファ』『魔笛』などに立て続けに出演。06年には『皇帝テイトの慈悲』表題役において、演出家P.コンヴィチュニーの高い要求に応えた。08年6月『ナクス島のアリアドネ』では、これまでのキャラクターとは一線を画すテノール歌手・バッカス役を演じ絶賛された。びわ湖ホール、東京二期会公演の『サロメ』ヘロデや、日生劇場ヤナーチェク『マクロプロス家の事』に出演するなどめまぐるしい活躍を続けている。東京文化会館50周年記念フェスティバル記念オペラ『古事記』ササノワでは確かな歌唱力で公演の成功に貢献している。新国立劇場には02年小劇場オペラ『賢い女』で初登場。05年『ルル』アルヴァ、06年『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドでは、それぞれ急遽代役として舞台に立ち、その後も『さまよえるオランダ人』『タンホイザー』『軍人たち』のほか、『ラインの黄金』ミーメ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ポロ服の男、『ばらの騎士』ヴァルツァッキ、『蝶々夫人』ゴローなどに出演しいずれの公演でも高い評価を得ている。2012/2013シーズンでは『タンホイザー』ハインリヒ、『魔笛』モノスタスでも出演予定。二期会会員。



セドリー夫人 (東インド会社代理人の未亡人) : 加納悦子

Mrs. Sedley, a rentier widow of an East India Company's factor : Kanoh Etsuko

東京藝術大学大学院を修了後、ドイツ国立ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。同大学在籍中にケルン歌劇場のオペラスタジオ研修生をへて同歌劇場の専属歌手として契約。1995年ザルツブルグ国際モーツァルトコンクール声楽部門2位入賞。ケルン歌劇場では『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキ、『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼルなど40以上の演目出演。他にもドイツ・シュトゥットガルト歌劇場やベルギー・フランダース・オペラ、スイス・ザンクトガレン歌劇場を始め多くの劇場に出演。またウルマン『アトランティスの皇帝』など現代オペラにも出演。日生劇場開場40周年記念／二期会共催公演『ルル』では主要3役をこなし、柔軟性ある演技が絶賛された。びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ばらの騎士』オクタヴィアン、びわ湖ホールオペラ『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、東京二期会『カブリッチョ』女優クレロなど常に高い評価を得ている。新国立劇場公演では『エレクトラ』第三の下女、『ザザ』アナーイデ、『ホフマン物語』ニクラウス／ミュージズ、『魔笛』侍女II、最近では『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年で出演し、いずれも堅実な歌唱と豊かな表現力が高く評価されている。二期会会員。

ネッド・キーン (薬剤師でやぶ医者) : 吉川健一

Ned Keene, apothecary and quack : Yoshikawa Kenichi

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所プロフェッショナルコース修了。日本クラシック音楽コンクール第2位(最高位)、トルトーナ国際音楽コンクール第3位、ラッコネージ国際音楽コンクール第3位受賞。大学院オペラ『フィガロの結婚』タイトルロールでオペラデビュー後、イタリアに留学。ヴィヴァルディ国立音楽院に学ぶ。世界的名バリトン、P.コーニのもとで研鑽を積みながら、『ラ・ボエーム』や『リゴレット』などイタリア各地の歌劇場に出演。帰国後、東京二期会『魔笛』(実相時昭雄演出) パパゲーノ役に抜擢され、その後『ジャンニ・スキッキ』マルコ、『天国と地獄』マルス、『サロメ』兵士1、日生劇場公演『夕鶴』運ず、『利口な女狐の物語』ハラシュタ、東京オペラグループ公演『フィガロの結婚』フィガロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、日本オペラ連盟『ポッペアの戴冠』、札幌交響楽団『ピーター・グライムズ』(演奏会形式)に出演し公演の成功に貢献している。新国立劇場には、2007年バレエ公演『オルフェオとエウリディーチェ』オルフェオ(歌手)、11年『コジ・ファン・トゥッテ』(演奏会形式)に出演。12年2月には『沈黙』に通辞で出演。二期会会員。



トスカ

レパートリー
Repertory

Tosca

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕 (イタリア語上演 / 字幕付)

初演：1900年1月14日 コンスタンツィ劇場 (ローマ)

作曲：ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台本：ジュゼッペ・ジャコーザ / ルイージ・イリカ Giuseppe Giacosa / Luigi Illica

情熱の歌姫トスカの激しい愛と過酷な運命。名アリアで綴られる愛憎劇！

演目選定にあたって

尾高芸術監督は、オペラの代名詞と呼ばれるようなスタンダードな人気作品をラインアップに効果的に組み込む事が重要と考え、正統派イタリア・オペラの真髄を描くM. ディアツによる『トスカ』を再演します。1幕フィナーレを飾るテ・デウムの大合唱、壮麗な装置や衣裳は、数ある新国立劇場のレパートリー作品の中でも、何年かに一度は再演すべきプロダクションとして人気を博しています。ストーリーも簡潔で万人を惹きこむ魅力を持ち、愛、憎悪、悪代官といったスリリングでドラマティックな要素が次々と登場します。3時間弱という上演時間も決して長すぎず、〈歌に生き恋に生き〉〈星は光りぬ〉など、メロディ作家としてのプッチーニの面目躍如たるところです。「プッチーニが現存していたら、必ずや映画音楽の巨匠ジョン・ウィリアムズ以上のヒットメーカーになっていたでしょう」と尾高芸術監督がコメントするほど、万人の心をとらえる魅力的な作品です。トスカ役には新国立劇場開場記念公演『アイーダ』以来すっかりおなじみのファンティーニ、カヴァラドッシ役はニュージーランド出身でヘルデン・テノールの注目株オニール、スカルピア役には韓国出身のコー、また指揮には沼尻竜典を配するなど国際的なキャスティングとなりました。プッチーニのオペラの中でもとりわけ劇的なこの作品で多くのお客様にご来場いただき、出演者によって新たな魅力発見となる“レパートリー作品のオペラ観劇”の楽しみ方をご提案したいと思います。

作品解説

『マノン・レスコー』『ラ・ボエーム』の大成功によりオペラ作曲家として世界的地位と名声を獲得したプッチーニ円熟期の傑作。フランスの劇作家ヴィクトリアン・サルドゥーが19世紀を代表する名女優サラ・ベルナールのために書いた戯曲『ラ・トスカ』(1887年)が原作です。この戯曲を見て感動したプッチーニがオペラ化を決意し、1900年1月14日ローマで不朽の名作が初演を迎えました。『トスカ』の物語は、1800年6月17日、ローマの聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会を舞台に始まります。時代は折りしもフランス革命後、オーストリア帝国の支配下にあったイタリアに、1796年ナポレオン軍が侵攻、一進一退を繰り返していました。この、フランスと結びついた自由主義者と反仏運動を起こした守旧軍の間の対決が、登場人物間の愛と権力と欲望と絡み合っ、オペラを緊張感みなぎる劇的な作品としています。また、第1幕の聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会、現在はフランス大使館として使用されている第2幕スカルピアの執務室のあるファルネーゼ宮殿、第3幕の舞台になる、大きな天使像がついた聖アンジェロ城は、ローマのテヴェレ川に沿って現存する建築物で、オペラの世界的知名度と共に観光名所ともなっています。

あらすじ

1800年6月17日、オーストリアの支配下のローマで、警視総監のスカルピアは権力を振りかざし、共和主義者達を次々と逮捕していた。画家のカヴァラドッシが聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会で MARIA 像を描いていると、友人アンジェロッチが脱獄しこの礼拝堂に逃げ込んで来る。カヴァラドッシには、歌姫トスカという恋人がいたが、トスカに横恋慕しているスカルピアはカヴァラドッシを友人をかくまった罪で捕らえ、彼女を我が物にしようと企む。ファルネーゼ宮殿のスカルピアの執務室で、冷酷非情なスカルピアは、トスカの面前でカヴァラドッシを拷問し、アンジェロッチの居場所をトスカに吐かせる。さらに、恋人の命と引き換えに、その身体を要求。進退窮まったトスカはスカルピアの取引に応じ、かわりにカヴァラドッシの処刑を見せかけの銃殺刑とし、二人が国外へ逃れるための通行許可証を要求する。スカルピアは満足げにトスカに近づくと、テーブルに置いてあったナイフを手にしたトスカに刺し殺される。トスカは通行許可証を手し、聖アンジェロ城で銃殺刑を待つばかりのカヴァラドッシのもとへ行き、この銃殺刑が見せかけである事を告げる。銃声とともにカヴァラドッシは倒れる。物陰に隠れていたトスカは彼のもとに駆け寄るが、カヴァラドッシが本当に死んでいる事に気付く。スカルピア殺害も発覚し、迫る追手の目前で万事休したトスカは、城壁から身を投げる。



2002年公演より
トスカ：ノルマ・ファンティーニ



2009年公演より

G. プッチーニ

トスカ

Tosca / Giacomo Puccini

全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	沼尻竜典
Conductor	Numajiri Ryusuke
演出……………	アントネッロ・マダウ＝ディアツ
Production	Antonello Madau Diaz
美術……………	川口直次
Scenery Design	Kawaguchi Naoji
衣裳……………	ピエール・ルチアーノ・カヴァロッティ
Costume Design	Pier Luciano Cavallotti
照明……………	奥畑康夫
Lighting Design	Okuhata Yasuo
トスカ……………	ノルマ・ファンティーニ
Tosca	Norma Fantini
カヴァラドッシ……………	サイモン・オニール
Cavaradossi	Simon O'Neill
スカルピア……………	センヒョン・コー
Scarpia	Seong-Hyoun Ko
アンジェロッティ……………	谷 友博
Angelotti	Tani Tomohiro
スポレッタ……………	松浦 健
Spoletta	Matsuura Ken
シャルローネ……………	峰 茂樹
Sciarrone	Mine Shigeki
堂 守……………	志村文彦
Il Sagrestano	Shimura Fumihiko
	ほか
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
児童合唱……………	TOKYO FM 少年合唱団
Children Chorus	TOKYO FM BOYS CHOIR
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2012年11月11日(日) 2:00 20日(火) 7:00
 14日(水) 2:00 23日(金・祝) 2:00
 17日(土) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 23,100円・A : 18,900円・B : 12,600円・C : 7,350円・D : 4,200円

【前売開始】2012年7月15日(日)

トスカ

Tosca / Giacomo Puccini

指揮：沼尻竜典

Conductor : Numajiri Ryusuke

1990年第40回ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。ロンドン交響楽団、モントリオール交響楽団、シドニー交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、パリ室内管弦楽団など欧米各国のオーケストラを指揮。これまで、新星日響正指揮者、東フィル正指揮者、名古屋フィル常任指揮者、日本フィル正指揮者を歴任。オペラ指揮者としては、97年『後宮からの誘拐』でデビュー以後、ケルン、ミュンヘン、ベルリン、新国立劇場など国内外の劇場で指揮。これまでに『サロメ』『トゥーランドット』『ラ・ボエーム』のほか、ツェムリンスキー『女王様の誕生日』とプゾーニ『ファウスト博士』の日本初演、ベルク『ルル』全3幕完成版・日本初演など、意欲的な演目を取り上げ、いずれも高く評価されている。2007年よりびわ湖ホール第2代芸術監督に就任、数々のプロダクションを成功に導いている。11年文化庁芸術祭優秀賞、芸術選奨文部科学大臣賞など受賞多数。現在、びわ湖ホール芸術監督、群馬交響楽団の首席指揮者兼芸術アドバイザー、日本センチュリー響首席客演指揮者、トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ音楽監督。新国立劇場には04年『カルメン』に続いて、07年『フィガロの結婚』、10年『鹿鳴館』、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』『トスカ』に出演している。



演出：アントネッロ・マダウ＝ディアツ

Production : Antonello Madau Diaz

イタリア・ペルージャ生まれ。フィレンツェで舞台技術と演出を学び、ヴィスコンティ、ゼッフィレリなど世界第一級の演出家のもとで研鑽を積む。1956年ジェノヴァ市立歌劇場の『ヘンゼルとグレーテル』でオペラ演出家デビュー。以来、ミラノ、ローマなどイタリア各地をはじめ、スペイン、フランス、アメリカなど世界各地の歌劇場で200本以上の演出を手がけ、オペラ専門の演出家として活躍。いずれもイタリア・オペラの伝統を踏まえた手堅い演出で評価を得ている。58年から91年までミラノ・スカラ座に所属し、演出部長、制作部長を務めた。新国立劇場では、98年に『ナブッコ』、2000年には『トスカ』の演出を手掛けた。『トスカ』は緻密な舞台づくりと豪華な舞台装置で、開場記念公演『アイーダ』に並ぶ新国立劇場の人気レパートリーとなっている。

トスカ：ノルマ・ファンティーニ

Tosca : Norma Fantini

イタリア北部・クーニオ生まれ。スポレートのA. ベッリコンクールで優勝し、同市で『ドン・カルロ』エリザベッタと『マハゴニー市の興亡』ジェシーを歌ってオペラデビュー。ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、チューリッヒ歌劇場、ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）、メトロポリタン歌劇場、ローマ歌劇場など世界各地の主要歌劇場に出演。『アイーダ』タイトルロール、『運命の力』レオノーラ、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『仮面舞踏会』アメリア、『オテロ』デズデーモナ、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『トスカ』タイトルロール、『マノン・レスコー』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナなど幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場には開場記念公演及び開場10周年記念特別公演『アイーダ』タイトルロール、『仮面舞踏会』アメリア、『トスカ』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナ、2010年『ニューイヤーオペラパレス ガラ』に出演し、多くのファンを獲得している。



トスカ

Tosca / Giacomo Puccini

カヴァラドッシ: サイモン・オニール

Cavaradossi : Simon O'Neill

ニュージーランド生まれ。オタゴ大学、ウェリントン・ヴィクトリア大学、マンハッタン音楽院、ジュリアード・オペラ・センターで学ぶ。これまでにメトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、エジンバラ音楽祭、オーストラリア・オペラなどで活躍。2007年英国ロイヤルオペラ『ワルキューレ』ジークムントで好評を博し、10年『ローエン格林』タイトルロールでパイロイト音楽祭にデビュー。翌年もパイロイトで『パルジファル』タイトルロールを歌い、豊かな声量と輝きのある高音が魅力のヘルデンテノールとして、確固たる定評を得た。『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』ヴァルター、『オテロ』タイトルロール、『トスカ』カヴァラドッシ、『フィデリオ』フロレスタン、『売られた花嫁』イエニク、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイ、『魔笛』タミーノなど幅広いレパートリーを持つ。今後の予定としては、12年8月英国ロイヤルオペラ『ワルキューレ』ジークムントのほか、同役でパレルモ、ヒューストン、ウィーン、ベルリン、ミュンヘン、ハンブルク各地に出演予定。また、ウィーン国立歌劇場、レアル劇場、英国ロイヤルオペラで『パルジファル』タイトルロールなどがある。コンサートでの活躍も多く、09年12月デュトワ指揮のNHK交響楽団との共演で来日。新国立劇場初登場。



スカルピア: センヒョン・コ

Scarpia : Seong-Hyoun Ko

韓国出身。ソウル国立大学で学んだ後、ミラノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で学ぶ。1982年にソウル歌劇場の『フィガロの結婚』でオペラデビュー。90年以降はイタリアを中心にヨーロッパで活躍。最近では2011年ベルリン・ドイツ・オペラ『アンドレア・シェニエ』ジェラルドで出演。これまでにフィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、カタリニャ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラのほか、フランス、ベルギー、ギリシャ、スイスなどの歌劇場に出演。『アイーダ』アモナスロ、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『オテロ』イアーゴ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、『道化師』トニオなどをレパートリーに持つ。今後の予定としては12年にフランスのオペラ・マシーで『アンドレア・シェニエ』ジェラルド、13年にマルセイユ歌劇場『オテロ』イアーゴなどがある。現在ハンヤン大学音楽学部教授。新国立劇場初登場。

アンジェロッティ: 谷 友博

Angelotti : Tani Tomohiro

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第27回リクルート・スカラシップ生としてミラノ音楽院に学ぶ。第68回日本音楽コンクール声楽部門第1位など受賞多数。1995年スロヴェニアのマリボル国立歌劇場『ルチア』エンリーコ、『セビリアの理髪師』フィガロに出演。その後もイタリア各地で『愛の妙薬』ベルコーレ、『ドン・パスカール』マラテスタ、『椿姫』ジェルモン、『ラ・ボエーム』マルチェッロなど、数々のオペラ、ガラ・コンサートなどに出演。日本では99年、藤原歌劇団に『ラ・ボエーム』ショナールで本格的オペラデビューし、2003年には『椿姫』ジェルモンに抜擢される、同年『ロメオとジュリエット』メルキューシオ、その後もヴォルフ・フェラーリ『イル・カンピエッロ』アンブレート、『ランスへの旅』ドン・アルヴァロなどに出演し、いずれも好評を博す。新国立劇場では『リゴレット』マルッコ、『ルチア』エンリーコ、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『トスカ』アンジェロッティ、『ラ・ボエーム』ショナール、『黒船—夜明け』町奉行、『夕鶴』運ずの他、高校生のためのオペラ鑑賞教室『椿姫』ジェルモンなどに出演。藤原歌劇団団員。



セビリアの理髪師

2012.11/28 ~ 12/9

レパートリー
Repertory

Il Barbiere di Siviglia

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1816年2月20日 アルゼンティナ劇場（ローマ）

作曲：ジョアキーノ・ロッシーニ（1792-1868） Gioachino Rossini

台本：チェザレ・ステルビーニ Cesare Sterbini

ロッシーニ・サウンドの魅力全開！ 底抜けに明るいラブ・コメディ。

演目選定にあたって

オペラハウスのレパートリーとしてなくてはならないスタンダードな名作をレパートリーの中から上演いたします。19世紀の大作曲家ロッシーニによるオペラ・ブッフア（喜劇）の代表作は、後の作曲家に多大な影響を与えたことは勿論ですが、何よりも本当にリラックスして楽しめる作品です。一方、演奏家からすると、歌唱も演奏も難易度が高く、イタリア・オペラの中でも、とりわけ早いパッセージや軽快で明るい表現が要求される等、独特の難しさがあります。この作品はモーツァルトの『フィガロの結婚』と対にあり、序曲はよく知られていますが、お客様に味わって頂きたい本当の素晴らしさはオペラ本篇にも数多くちりばめられています。2005年初演のケップリンガーによる演出は、舞台をフランコ独裁政権下の1960年代に置き換えたもので、スピード感に溢れる、コミカルなこのプロダクションはカーテンコールで大喝采を浴びました。指揮には2009年『蝶々夫人』で好評を博したモンタネーロが再登場。若手・ベテラン歌手をバランスよく配したキャスティングにご期待ください。新国立劇場のレパートリー作品が、再演を重ねるごとに内容を充実させ、劇場の財産となっていくことを目的とします。

作品解説

フランスの作家、ボーマルシェの書いた三部作『セビリアの理髪師』『フィガロの結婚』『罪深き母』の第一話が原作。この続編が、この作品よりおよそ30年前にモーツァルトによって作曲された『フィガロの結婚』です。原作は当時人気が高く、ロッシーニが作曲する前から何人かの作曲家によってオペラ化されています。実際、ロッシーニは先に作曲して爆発的人気を博したパイジェッロの向こうを張ってこの作品を発表したため、初演時にパイジェッロ派による野次や口笛の妨害に上演の中断を余儀なくされてしまいました。しかし、その走り抜けるような音楽の爽快感、底抜けに明るい音色、“ロッシーニ・クレッシェンド”と呼ばれる繰り返しのうちに音量を増して高みを築いていく洗練された音楽は、あっというまに人々の心を掴み、彼の代表作といわれるまでになりました。18世紀のスペイン、セビリアが舞台で、自他ともに機転の良さにかけてはセビリア一番の理髪師フィガロが、深窓の箱入り娘ロジーナと、彼女に一目惚れしたアルマヴィーヴァ伯爵の縁結びをするというオペラ・ブッフア（喜劇）です。当時の理髪師は町の情報通で、散髪だけでなく、簡単な外科手術や抜歯を施したり、恋の仲介から身の上相談、手紙の代筆に配達まで、お金さえ貰えれば何でもする町の便利屋でもありました。そんな理髪師フィガロが臨機応変、縦横無尽に立ち回る様はこのオペラの大きな魅力です。

あらすじ

青年貴族アルマヴィーヴァ伯爵はブラドの街で見かけた娘ロジーナに一目惚れし、セビリアまでやってきた。ロジーナは街一番の美人。伯爵は貧乏学生のリンドーロと身分を隠して彼女を口説きはじめる。ロジーナもこの貧乏学生に恋をするが、ロジーナの家には後見人で、且つ財産が目当てでロジーナと結婚したがつているバルトロがいる。箱入り娘の彼女はめったなことでは外に出られない。そこで、アルマヴィーヴァ伯爵は、理髪師で街の便利屋フィガロに助力を求める。フィガロも伯爵の財布を目当てに求めに応じる。バルトロは、音楽教師ドン・バジリオの協力を得て、ロジーナを厳しく監視する。情報通のバジリオは、ロジーナを慕うアルマヴィーヴァ伯爵がセビリアの街へやってきていることを耳打ちし、早速撃退策を講じる。バルトロは手っ取り早く結婚してしまおうとする。

なんとかしてロジーナに想いを伝えたい伯爵は、フィガロの機転でバルトロ家への侵入に成功し、フィガロがバルトロの髭をそっている間にロジーナに駆け落ちの相談をする。しかし、バジリオに伯爵の正体を見破られて退散。バルトロは偽の手紙をロジーナに見せ、リンドーロはロジーナを伯爵に売り飛ばすつもりだと告げる。これを真に受けたロジーナは心底落胆し、バルトロとの結婚を承諾してしまう。フィガロと伯爵は計画通り、嵐の夜にベランダからロジーナの屋敷に忍び込む。リンドーロと名乗っていた伯爵はロジーナに本当の身分を明かし、改めて結婚を申込む。誤解が解けたロジーナは、晴れてプロポーズを受ける。バルトロはロジーナの財産を分けてもらうことで渋々承諾、ハッピーエンドで幕となる。



2005年公演より

G. ロッシーニ

セビリアの理髪師

Il Barbiere di Siviglia / Gioachino Rossini

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………カルロ・モンタナーロ
Conductor Carlo Montanaro

演出……………ヨーゼフ・E ケップリンガー
Production Josef E. Köpplinger

美術・衣裳……………ハイドルン・シュメルツァー
Scenery and Costume Design Heidrun Schmelzer

照明……………八木麻紀
Lighting Design Yagi Maki

アルマヴィーヴァ伯爵 …… ルシアーノ・ボテリョ
Il Conte d'Almaviva Luciano Botelho

ロジーナ……………ロクサーナ・コンスタンティネスク
Rosina Roxana Constantinescu

バルトロ……………ブルーノ・プラティコ
Bartolo Bruno Praticò

フィガロ……………ダリボル・イエニス
Figaro Dalibor Jenis

ドン・バジリオ……………妻屋秀和
Don Basilio Tsumaya Hidekazu

ベルタ……………与田朝子
Berta Yoda Asako

フィオレッロ……………榎 貴志
Fiorello Masu Takashi

ほか

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2012年11月28日(水) 6:30 6日(木) 6:30
12月 1日(土) 2:00 9日(日) 2:00
4日(火) 2:00
オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 21,000円・A : 15,750円・B : 10,500円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2012年7月29日(日)

セビリアの理髪師

Il Barbiere di Siviglia / Gioachino Rossini

指揮：カルロ・モンタナーロ

Conductor : Carlo Montanaro

イタリア中部・チェーチーナ生まれ。フィレンツェのケルビーニ音楽院を卒業し、1991年フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団でヴァイオリン奏者として音楽の道を歩み始める。その後、Z.メータの推薦を受けウィーン音楽大学でL.ハーガーに師事して研鑽を積む。2001年にフィレンツェ歌劇場でオペラ・デビュー。05年シュトゥットガルト歌劇場での『イル・トロヴァトーレ』を皮切りに国際的キャリアをスタート。これまでにミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、パレルモのマッシモ歌劇場、ヴェローナ野外劇場、フェニーチェ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、イスラエル・オペラなどに登場。ヴェルディ、プッチーニ、マスカーニ、ドニゼッティ、ロッシーニなどイタリアものほか、モーツァルト、マスネ、グノー、シュトラウス、プーランクなど幅広いレパートリーを持つ。今後の予定としては、フランクフルト・オペラで『ドン・カルロ』『友人フリッツ』など、シアトル・オペラで『アッティラ』『ファウスト』など、ハンブルク州立歌劇場で『アイダ』『トゥーランドット』など、フィレンツェ歌劇場の『ラ・ボエーム』などがある。新国立劇場では09年『蝶々夫人』で好評を博して以来2度目の登場となる。



演出：ヨーゼフ・E ケップリンガー

Production : Josef E. Köpplinger

オーストリア・ウィーン生まれ。現在ドイツ語圏で最も注目を浴びる若手演出家のひとり。アメリカで演劇を学んだ後、ウィーン音楽大学でピアノと声楽を学び、在学中から俳優・歌手として活躍する。1987年レーゲンスブルク歌劇場のミュージカルで演出家デビュー。以来、バーデン市立劇場、ベルリン・カンマーシュピレ、ウィーン・フォルクスオーパー、グラーツ歌劇場、フロリダ州タンパ歌劇場、マンチェスター・ナショナル・シアターなどで演出を手がけている。2004/2005シーズンより、スイスのザンクトガレンで演劇部門の芸術監督、2007/2008シーズンよりオーストリア南部のクラゲンフルト市立劇場総監督を務めている。

※劇場HP「オペラ入門」で、05年新制作時に演出家ケップリンガーの助手を務め翌年の上演で再演演出を務めた田尾下 哲が、リハーサルの様子やドラマとしての楽しみ方、最近の演出の傾向とその目ざすところなど臨場感溢れる文章でわかり易く解説しています。

<http://www.nntt.jac.go.jp/season/introduction/index.html>

アルマヴィーヴァ伯爵：ルシアーノ・ボテリョ

Il Conte d'Almaviva : Luciano Botelho

ブラジル・リオデジャネイロ生まれ。2001年にマナウス・アマゾナス劇場のアマゾン・オペラ・フェスティバル『魔笛』タミーノでデビュー。ロンドンに移りギルドホール音楽演劇学校で修士号を取得。07年にナントで『オリー伯爵』タイトルロールを歌ってヨーロッパデビュー。以来、フランスのオペラ・マシー、ワルシャワ歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場、マンハイム歌劇場、さらにイングリッシュ・ナショナル・オペラ、ジュネーヴ歌劇場などに出演。11年に『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵で英国ロイヤルオペラに登場し、さらに活躍の場を広げ、凛とした気品漂う透き通った美声は高く評価されている。『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『愛の妙薬』ネモリーノ、『泥棒かささぎ』ジャンネット、『チェネレントラ』ラミーロ、『オルフェオとエウリディーチェ』オルフェオ、『アンナ・ボレーニナ』パーシー、ドニゼッティの『ルクレツィア・ボルジア』ジェンナーロなどのレパートリーを持つ。今後の予定としては、シュトゥットガルト歌劇場で『夢遊病の女』エルヴィーノ、アン・デア・ウィーン劇場で『湖上の美人』ジャコモ5世などがある。新国立劇場初登場。



セビリアの理髪師

Il Barbiere di Siviglia / Gioachino Rossini

ロジーナ: ロクサーナ・コンスタンティネスク

Rosina : Roxana Constantinescu

ルーマニア・ブカレスト生まれ。ジョルジュ・エネスコ・アカデミーでピアノと打楽器を、その後ブカレスト国立音楽大学で声楽を学ぶ。2003年に奨学金を得てウィーン音楽大学で学ぶ。06年ミュンヘンのARD国際音楽コンクールに優勝。2007/2008のシーズンよりウィーン国立歌劇場の専属歌手となり、小澤征爾指揮の『フィガロの結婚』ケルビーノでオペラデビューを果たす。2009/2010のシーズンまでウィーン国立歌劇場で活動後、その後はケルン歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、ミネソタ・オペラ、ダラス・オペラ、アン・デア・ウィーン劇場、トゥールーズ・キャピトル劇場、ブカレスト国立歌劇場などに出演し、着実にキャリアを築く。『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナとドンナ・エルヴィーラ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『チェネレントラ』アンジェリーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ、『ホフマン物語』ニクラウス、『ファウスト』ジーベル、『ウェルテル』シャルロット、『ロメオとジュリエット』ステファノ、『ボリス・ゴドゥノフ』フォードル、『真夏の夜の夢』ハーミア、『こうもり』オルロフスキー公爵など幅広いレパートリーを持つ。安定したコロラトゥーラのテクニックと豊かな声の響きを兼ね備えた歌唱力と、フェミニンな舞台姿で人気を集めている。新国立劇場初登場。



バルトロ: ブルーノ・プラティコ

Bartolo : Bruno Praticò

イタリア西北部・アオスタ生まれ。G. ヴァルデンゴに師事した後、ミラノ・スカラ座特別コースで学び、さらにR. チェレッティに師事。これまでにミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ボローニャ歌劇場、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ネザーランド・オペラなど世界各地の歌劇場に出演している。また、ペーザロのロッシェニ・オペラ・フェスティバルには1993年から定期的に出演する常連で歌唱・演技ともに高く評価されている。受賞多数。当たり役の『セビリアの理髪師』バルトロのほか、『チェネレントラ』ドン・マニフィコ、『愛の妙薬』ドゥルカマーラ、『フィガロの結婚』バルトロ、『連隊の娘』シュルピス、『ドン・パスクワーレ』タイトルロールなどのレパートリーを持つ。新国立劇場には『セビリアの理髪師』で98年マエストリーニ演出と、2002年の栗國淳演出のプロダクションにいずれもバルトロ役で出演している。

フィガロ: ダリボル・イエニス

Figaro : Dalibor Jenis

スロヴァキア共和国生まれ。ブラチスラヴァ音楽院で学び、イタリアに留学。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、バルセロナのリセウ劇場、マドリッドのレアル劇場、ボローニャ歌劇場、ローマ歌劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。当たり役の『セビリアの理髪師』フィガロ、『椿姫』ジェルモン、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『仮面舞踏会』レナート、『マノン・レスコー』レスコー、『ラ・ボエーム』マルチェット、『ファウスト』ヴァレンティン、『エウゲニ・オネーギン』と『ドン・ジョヴァンニ』のタイトルロールなど幅広いレパートリーを持つ。2013年以降の予定としては、ベルギー王立歌劇場(モネ劇場)『ナブッコ』でタイトルロールデビュー、ハンブルク州立歌劇場『ファウスト』『椿姫』『セビリアの理髪師』『ドン・ジョヴァンニ』、ベルリン・ドイツ・オペラで『アッティラ』タイトルロールデビュー、ミラノ・スカラ座とベルリンで『ドン・カルロ』、パリ・オペラ座で『セビリアの理髪師』などがある。新国立劇場には11年『マノン・レスコー』レスコー役で来日した(震災のため公演中止)。



セビリアの理髪師

Il Barbiere di Siviglia / Gioachino Rossini

ドン・バジリオ：妻屋秀和

Don Basilio : Tsumaya Hidekazu

松江市出身。東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994年から2001年ライブツィヒ歌劇場、02年より11年までワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演している。2011/2012シーズンは『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長で出演。2012/2013シーズンは『アイーダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長でも出演予定。藤原歌劇団団員。



ベルタ：与田朝子

Berta : Yoda Asako

東京都出身。国立音楽大学声楽科卒業。二期会オペラスタジオ修了。文化庁特別派遣芸術家在外研修員としてイタリアに留学。『フィガロの結婚』『魔笛』『ホフマン物語』『アルジェのイタリア女』『カルメン』『ヘンゼルとグレーテル』『カヴァレリア・ルステイカーナ』『羅生門』（日本初演）などに出演。Bunkamuraオペラ劇場『マダム・バタフライ』ではスズキを演じて高い評価を得る。大野和士指揮・東京フィルのオペラ・コンチェルト『ムツェンスク郡のマクベス夫人』、ヒンデミットの〈三部作〉『イエヌーフア』『無口な女人』『はるかな響き』『オテロ』など多くの日本初演を含む意欲的な上演の成功に貢献。二期会公演『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『フィガロの結婚』マルチェリーナ、『蝶々夫人』スズキ、『エフゲニー・オネーギン』ラーリナ、『エジプトのヘレナ』全知の貝殻、『イエヌーフア』女主人、『ジャンニ・スキッキ』ツイータなどに出演。新国立劇場には『リゴレット』ジョヴァンナ、『椿姫』アンニーナ、『ルル』その母、『セビリアの理髪師』ベルタ、『アラベッラ』カルタ占いで出演している。二期会会員。

フィオレッロ：榎 貴志

Fiorello : Masu Takashi

奈良県出身。大阪音楽大学声楽科を首席にて卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期生修了。第37回イタリア声楽コンクール ミラノ大賞、平成23年度（第22回）五島記念文化新人賞ほか多数受賞。オペラでは、『カルメン』エスカミーリョ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『セビリアの理髪師』フィガロ、『こもり』アイゼンシュタインなどに出演。07年佐渡裕プロデュースオペラ『魔笛』僧侶、東京オペラの森『エフゲニー・オネーギン』隊長、兵庫県立芸術文化センター・愛知県文化振興事業団・東京二期会共同制作公演『カルメン』モラレスでも好演する。東京二期会『メリー・ウイダー』主役ダニロのオーディションでは審査員満場一致で抜擢されている。『愛の妙薬』ベルコレ、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵なども得意とし、次世代を担うバリトンとして大きな期待が寄せられている。新国立劇場公演では高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』モラレスで出演。05年の地域招聘公演『沈黙』キチジロー役では、文化庁芸術祭大賞を受賞、11年2月にも同役で出演する。二期会会員。



タンホイザーと ヴァルトブルクの歌合戦

2013.1/23 ~ 2/5

レパートリー
Repertory

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf Wartburg

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初演：1845年10月19日 ドレスデン宮廷劇場（現：ザクセン州立歌劇場）

台本・作曲：リヒャルト・ワーグナー（1813-1883）Richard Wagner

官能の愛と純愛の間をさまよう男と、命を賭けた女の愛。ワーグナー中期の傑作！

演目選定にあたって

2007年に新制作されたドイツ・オペラ演出界の重鎮、レーマンによるプロダクションの再登場です。18世紀モーツァルトもイタリア語で多くのオペラ作品を書き、19世紀には全盛期を迎えたイタリア・オペラ。その伝統でもあった番号オペラ^(※)の形式から決別を成し遂げ、楽劇への第一歩となったのが、ワーグナーの楽劇『タンホイザー』です！ 後年、“楽劇”完成への過程において重要な位置を占めるこの傑作を、作曲者の生誕200周年の上演作品として選定しました。尾高芸術監督は音楽と物語本来の魅力の妨害ともなる“行きすぎる読み替え演出”は自身の方針には合わないとして、任期中の新国立劇場オペラ新制作プロダクションの方向性に常に気を配っています。07年の若杉弘芸術監督時代のオープニング作品となった本公演が、新国立劇場のレパートリー作品として幅広い観客層に支持される、明快で美しい演出であることは言うまでもありません。

難役のタイトルロールにはデンマーク出身で世界的に活躍するヘルデンテノールのアナセン、エリーザベト役には美しい舞台姿と輝きのある歌唱で今後さらなる活躍が注目される若手のミラーが出演します。指揮は12年1月の『ラ・ボエーム』でも登場するドイツ新進気鋭のトリックス。序曲をはじめ聴きどころ満載で、ソリストと男声合唱の迫力あるアンサンブルや、大規模なバレエシーンも含んだこの大作は、総合芸術たるオペラの醍醐味を満喫できるワーグナー・イヤーの幕開けにふさわしい演目です。

(※)番号オペラ：伝統的なイタリア・オペラは独立性の高い歌唱力(アリア・二重唱、合唱など)に初めから順に番号がつけられていた。

作品解説

オペラ界の頂点に立つ大作曲家ワーグナーが、イタリア・オペラの形式を脱し、オペラを総合芸術たる“楽劇”へ大成させる布石ともなった傑作で、初期から中期にかけて作曲された『さまよえるオランダ人』(1843年)、『タンホイザー』(45年)、『ローエングリン』(50年)を作曲家は“ロマン的オペラ”と呼びました。親しみやすく美しい音楽や分かりやすい物語展開で、ワーグナー作品の入門として最適な作品とも言われています。『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』という長い題名からもわかるように、中世のドイツに伝わる2つの伝説(愛を歌う実在した詩人をもとにした“タンホイザー伝説”と、騎士文化の中心地であったドイツ中部のヴァルトブルクの城で行われた、負けた方が命を落とすという歌合戦にまつわる“ヴァルトブルク伝説”)を結びつけた物語です。ここでもワーグナーの終生のテーマである“女性の愛による救済”が描かれており、官能的な愛の世界とキリスト教的な純愛との板ばさみとなって苦悩する騎士タンホイザーを、清純な恋人エリーザベトが自らの犠牲によって救います。タンホイザーは、中世ドイツの騎士であり、貴婦人を讃える高い愛(ミンネ)を歌う宮廷詩人ミンネゼンガーで、これはフランスで活躍していた宮廷吟遊詩人トルバドゥール、イタリアではトロヴァトーレにあたります。作品全体に聴きどころ満載で、オーケストラ・コンサートで単独で取り上げられることも多い序曲のほか、エリーザベトの〈歌の殿堂〉、巡礼の合唱、タンホイザーによる〈ローマ語り〉、ヴォルフラムの〈夕星の歌〉などが上げられます。

あらすじ

中世のドイツ。騎士タンホイザーは、禁断の地ヴェーヌスベルクで愛欲の女神ヴェーヌスの虜となっていた。やがてこの歡樂の日々にも飽きて、引き止めようとする女神の誘惑を振り切り、自分を愛する清らかな乙女エリーザベトが待つ人間世界に戻る。ヴァルトブルク城、歌の殿堂の大広間でエリーザベトとタンホイザーは再会を喜び、温かく迎えらる。タンホイザーもこれから城で開催される歌合戦に参加することとなる。領主ヘルマンから課題は「愛の本質」を明らかにすることだと発表される。かつての同僚ヴォルフラムは愛を清らかな“奇跡の泉”にたとえ、他の騎士たちも精神的な愛を讃える歌を歌う。タンホイザーはこれに反論し、愛の本質は官能の愛であると〈ヴェーヌス賛歌〉を歌い上げたため、ヴェーヌスベルクにいたことが人々に露見してしまう。大混乱となるが、タンホイザーは唯一の共感者であるエリーザベトのとりなしによって、この大罪への赦しを得るためローマ法王のもとへ懺悔の旅に出るよう領主から命じられる。エリーザベトの祈りもむなしく、タンホイザーだけが許しを得られなかったため、彼は自暴自棄になって“やさしい女神”ヴェーヌスのもと官能の愛で絶望を癒そうとする。しかし、エリーザベトが自らの命を犠牲に彼の罪を償い、迷いから救済されたタンホイザーも「エリーザベトよ、わがために祈れ」と叫んで息絶える。



2007年公演より

R.ワーグナー

タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf Wartburg / Richard Wagner

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮…………… コンスタンティン・トリックス
 Conductor Constantin Trinks

演出…………… ハンス＝ペーター・レーマン
 Production Hans-Peter Lehmann

美術・衣裳…………… オラフ・ツオンベック
 Scenery and Costume Design Olaf Zombeck

照明…………… 立田雄士
 Lighting Design Tatsuta Yuji

振付…………… メメット・バルカン
 Choreographer Mehmet Balkan

領主ヘルマン…………… クリスティン・ジグムンドソン
 Hermann Kristinn Sigmundsson

タンホイザー…………… スティー・アナセン
 Tannhäuser Stig Andersen

ヴォルフラム…………… ヨッヘン・クプファー
 Wolfram von Eschenbach Jochen Kupfer

ヴァルター…………… 望月哲也
 Walther von der Vogelweide Mochizuki Tetsuya

ビートルルフ…………… 小森輝彦
 Biterolf Komori Teruhiko

ハインリヒ…………… 高橋 淳
 Heinrich der Schreiber Takahashi Jun

ラインマル…………… 斉木健詞
 Reinmar von Zweter Saiki Kenji

エリーザベト…………… ミーガン・ミラー
 Elisabeth Meagan Miller

ヴェーヌス…………… エレナ・ツィトコワ
 Venus Elena Zhidkova

ほか

合唱…………… 新国立劇場合唱団
 Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽…………… 東京交響楽団
 Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

2013年1月23日(水) 5:30 2月2日(土) 2:00
 26日(土) 2:00 5日(火) 2:00
 30日(水) 5:30
 オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 26,250円・A : 21,000円・B : 14,700円・C : 8,400円・D : 5,250円

【前売開始】2012年9月22日(土・祝)

タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf Wartburg / Richard Wagner

指揮：コンスタンティン・トリンクス

Conductor : Constantin Trinks

1975年カールスルーエ生まれ。同市の音楽大学で指揮とピアノを学ぶ。またシュトゥットガルト室内合唱団ではテノール歌手。複数の歌劇場や音楽祭でヴォーカル・トレーナーや指揮者を務めながら幅広いレパートリーを身につける。バーデン州立歌劇場では大野和土のアシスタントを務める。2006年よりザールラント州立劇場の音楽監督代行。2009/2010シーズンよりダルムシュタット州立歌劇場の音楽監督。ほかにもベルリン・コーミッシェ・オーパー、クラゲンフルト市立劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座などに客演しているほか、コンサート指揮者としても様々なオーケストラを指揮している。モーツァルト、ベッリーニ、ドニゼッティ、プッチーニ、ヴェルディ、ワーグナー、シュトラウス、バーンスタインなどのオペラレパートリーのほか、幅広いシンフォニーレパートリーを持つ。13年には、ワーグナー生誕200年を記念し、バイロイト音楽祭（ライプツィヒ歌劇場と共同制作）で初上演となる『恋愛禁制』を指揮する。新国立劇場では08年『ドン・ジョヴァンニ』、12年1月の『ラ・ボエーム』を指揮。3度目の登場となる。



演出：ハンス＝ペーター・レーマン

Production : Hans-Peter Lehmann

ドイツ・カッセル生まれ。デトモルトで音楽を、ベルリンで美術史と演劇学を学ぶ。1958年ベルリン州立歌劇場でK.エーベルトの助手を、60年から73年までバイロイト音楽祭でウィーラント・ワーグナー及びヴォルフガング・ワーグナーの助手を務める。80年より2001年まで、ハノーファー州立歌劇場総監督を務め『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』『トスカ』『アイダ』『ヴォツェック』など数多くの作品を手がける。01年よりフリーの演出家として活躍し、世界各地のオペラハウスやフェスティバルで作品を発表している。今までに『ラインの黄金』『ワルキューレ』『トリスタンとイゾルデ』『リゴレット』『魔笛』『仮面舞踏会』などを演出した。新国立劇場では02年『ナクス島のアリアドネ』、04年『エレクトラ』に続いて、07年『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』が3作目の新演出となった。

領主ヘルマン：クリスティン・ジグムンドソン

Hermann : Kristinn Sigmundsson

アイスランド生まれ。生物学者から歌手に転身、レイキャビク声楽アカデミーおよびウィーン音楽大学で学ぶ。アイスランドでの出演を経て、ヘッセン州立歌劇場と契約。これまでにウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、フィレンツェ歌劇場など世界各地に出演。『魔笛』ザラストロ、『後宮からの誘拐』オスミン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『リゴレット』スバラフチーレ、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『ナブッコ』ザッカーリア、『タンホイザー』ヘルマン、『ローエングリン』ハインリヒ、『トリスタンとイゾルデ』マルケ王、『ワルキューレ』フンディング、『バルジファル』グルネマンツ、『ばらの騎士』オックス、『ルサルカ』ヴオドニクなど幅広いレパートリーを持つ。2011年10月バイエルン州立歌劇場来日公演では『ローエングリン』ハインリヒ国王役で来日している。新国立劇場初登場。



タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf Wartburg / Richard Wagner

タンホイザー：ステイー・アナセン

Tannhäuser : Stig Andersen

デンマーク出身。1979年デンマーク・オーフスでオペラデビュー。80年よりデンマーク王立劇場の専属歌手として、ニールセン『仮面舞踏会』レアンダー、『魔笛』タミーノ、『カルメン』ドン・ホセ、『フィデリオ』フロレスタン、『ピーター・グライツ』タイトルロールなどに出演。リリック及びスピントの諸役を歌ったのち、ヘルデン・テノール役で数多く出演する。2000年には『スペードの女王』ゲルマン、『オテロ』タイトルロールのほか、『ジークフリート』タイトルロールでメトロポリタン歌劇場デビューを飾る。以後、世界でも多忙を極める人気ワーグナー歌手として世界中の歌劇場で『ニーベルングの指環』ジークフリート、『タンホイザー』『ローエングリン』『バルジファル』のタイトルロール、『トリスタンとイゾルデ』トリスタンなどで活躍。12年3月にはデンマーク歌劇場『バルジファル』（新制作）タイトルロールに出演、5月には英国ロイヤルオペラ『サロメ』ヘロデ、『ラインの黄金』ローゲ（ロールデビュー）、13年にはハンブルク州立歌劇場『トリスタンとイゾルデ』トリスタン、『タンホイザー』タイトルロールと『ワルキューレ』（演奏会形式）ジークムント、14年にはアムステルダム歌劇場に再登場し『ニーベルングの指環』（チクルス公演の『ジークフリート』及び『神々の黄昏』）、15年にはパリ・オペラ座『サロメ』ヘロデなどが予定されている。また、06年にはコペンハーゲン王立歌劇場『ケインとアベル』で演出家としての活動も開始した。日本には1997年バレンボイム指揮ベルリン州立歌劇場『バルジファル』（演奏会形式）タイトルロール、2007年アルミンク指揮新日本フィル『ローエングリン』（セミステージ上演）タイトルロールに出演している。新国立劇場初登場。



ヴォルフラム：ヨッヘン・クプファー

Wolfram von Eschenbach : Jochen Kupfer

ドイツ・ザクセン州ゲリンマ生まれ。同市で10歳のときから声楽レッスンを受ける。ライブツィヒ音楽大学でH.フォルナー教授に師事。他にもT.アダム、D.F=ディスカウ、E.シュワルツコップなどの声楽レッスンを受ける。マイニンゲン市立劇場と初の専属歌手として契約を結び、同劇場でオペラキャリアをスタートさせる。その後、ザクセン州立歌劇場の専属となり、現在は、ニュルンベルク歌劇場と契約している。これまでにベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ライブツィヒ歌劇場、グラーツ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、シュレスヴィヒ・ホルスタイン音楽祭などに出演。『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『魔笛』パパゲーノ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『ウィリアム・テル』タイトルロール、『椿姫』ジェルモン、『タンホイザー』ヴォルフラム、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『エレクトラ』オレスト、『カプリッチョ』オリヴィエなどのレパートリーを持つ。新国立劇場初登場。

ヴァルター：望月哲也

Walther von der Vogelweide : Mochizuki Tetsuya

東京都出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院音楽科修士課程オペラ科修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞受賞。大学院在学中にNTTドコモより奨学金を授与。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科に在籍し研鑽を積む。第70回日本音楽コンクール第2位入賞（オペラ・アリア部門）など受賞多数。『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』『椿姫』『愛の妙薬』『セビリアの理髪師』などに出演。近年は『ボッペアの戴冠』『デイドとエネアス』『ナクソス島のアリアドネ』『サロメ』などに出演。2008年ポーランド・レグニツァ市立劇場『魔笛』タミーノでヨーロッパデビュー。その後も東京二期会『皇帝テイトの慈悲』タイトルロール、『カプリッチョ』フラマン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオと出演が続いている。新国立劇場には『アラベッタ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラポートなど注目公演への出演が続いた。2012/2013シーズンは『ピーター・グライツ』ホレス・アダマス、『魔笛』タミーノにも出演予定。二期会会員。



タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf Wartburg / Richard Wagner

ビートルフ：小森輝彦

Biterolf：Komori Teruhiko

東京都出身。東京藝術大学、同大学院オペラ科文化修了。文化庁オペラ研修所に学ぶ。1995年文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルリン芸術大学に学ぶ。在学中から数々の舞台を踏み W. リーム『狂ってゆくレンツ』（若杉弘指揮・日本初演）の超難役レンツを演じ切って評価を高めた。海外ではプラハ国立歌劇場『椿姫』ジェルモンでデビュー。2000年にドイツのアルテンブルク・ゲラ市立歌劇場専属第一バリトンとして契約。『リゴレット』タイトルロールでデビューし、『さまよえるオランダ人』『ナブッコ』のタイトルロール、『ルチア』エンリーコ、『魔笛』弁者、『死の都市』フリッツ、『フィレンツェの悲劇』シモーネ、世界初演『コジマ』の主役ニーチェなど数多く出演。06年にはザルツブルク音楽祭『午後の曳航』首領で出演。レパートリーは多岐にわたり、63役を数える。日本では、二期会創立50年記念『こうもり』ファルケ、東京室内歌劇場公演『インテルメッツォ』ローベルト、二期会『ワルキューレ』ヴォータンなどに出演。ドイツリートや宗教曲のレパートリーも数多い。11年4月にドイツ宮廷歌手（Kammersänger）の称号を授与される。新国立劇場には『サロメ』ヨハナーン、『ナクソス島のアリアドネ』音楽教師、『アラベッラ』のマンドリカ、小劇場オペラ『オルフェオとエウリディケー』オルフェオで出演している。二期会会員。



ハインリヒ：高橋 淳

Heinrich der Schreiber：Takahashi Jun

埼玉県出身。東京音楽大学卒業、同大学院及び二期会オペラスタジオマスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。2001年『ホフマン物語』で二期会オペラデビュー後、『イエヌーファ』『魔笛』などに立て続けに出演。06年には『皇帝テイトの慈悲』表題役において、演出家P. コンヴィチュニーの高い要求に応えた。08年6月『ナクソス島のアリアドネ』では、これまでのキャラクターとは一線を画すテノール歌手・バックス役を演じ絶賛された。びわ湖ホール、東京二期会公演の『サロメ』ヘロデや、日生劇場ヤナーチェク『マクロブロス家の事』に出演するなどめまぐるしい活躍を続けている。東京文化会館50周年記念公演フェスティバル記念オペラ『古事記』スサノヲでは確かな歌唱力で公演の成功に貢献している。新国立劇場には02年小劇場オペラ『賢い女』で初登場。05年『ルル』アルヴァ、06年『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドでは、それぞれ急遽代役として舞台に立ち、その後も『さまよえるオランダ人』『タンホイザー』『軍人たち』のほか、『ラインの黄金』ミーメ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ボロ服の男、『ばらの騎士』ヴァルトツァッキ、『蝶々夫人』ゴローなどに出演しづれの公演でも高い評価を得ている。2012/2013シーズンでは『ピーター・グライムズ』ボブ・ボウルズ、『魔笛』モノスタスでも出演予定。二期会会員。

ラインマル：斉木健詞

Reinmar von Zweter：Saiki Kenji

愛知県出身。国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ第43期マスタークラス修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてポーランドへ留学。第78回日本音楽コンクール声楽部門第3位。これまで『フィガロの結婚』『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』『蝶々夫人』『リゴレット』『愛の妙薬』などで常に高い評価を得ている。二期会ニューウェーブオペラ劇場モンテヴェルディ『ボッペアの戴冠』セネカ、ヘンデル『ジュリアス・シーザー』アッキラ、二期会公演『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、『ラ・ボエーム』コッリーネ、佐渡裕プロデュース『カルメン』スニガ、びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作『アイーダ』、東京二期会『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『ナクソス島のアリアドネ』トルファルディン、『エフゲニー・オネーギン』グレーミン公などに出演している。新国立劇場には『カルメン』スニガ、『サロメ』2人の兵士2、『アイーダ』エジプト国王、『軍人たち』フォン・シュパンハイム伯爵に出演。輝かしくも荘厳なバスの響きは聴衆を魅了した。二期会会員。



タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦

Tannhäuser und der Sängerkrieg auf Wartburg / Richard Wagner

エリザベト: ミーガン・ミラー

Elisabeth : Meagan Miller

アメリカ・デラウェア州生まれ。2009年にウィーン・フォルクスオーパー『ナクソス島のアリアドネ』タイトルロールでヨーロッパデビュー。以来、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、パレルモのマッシモ歌劇場、エジンバラ音楽祭などに出演。2011/2012シーズンには、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンガリー国立歌劇場でデビュー。さらに、ワシントン・ナショナル・オペラへのデビューが続き、今後も世界の一流歌劇場での活躍が期待されている。輝かしい美声が高く評価されており、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナとドンナ・エルヴィーラ、『後宮からの誘拐』コンスタンツェ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『アルミーダ』タイトルロール、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『オテロ』デズデーモナ、『椿姫』ヴィオレッタ、『西部の娘』ミニー、『ファルスタッフ』フォード夫人、『タンホイザー』エリザベト、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーファ、R.シュトラウスの『ダナエの愛』タイトルロール、『こもり』ロザリンデと幅広いレパートリーを持つ。新国立劇場初登場。



ヴェーヌス: エレナ・ツイトコワ

Venus : Elena Zhidkova

ロシア・サンクトペテルブルク生まれ。ゲッツ・フリードリヒに見出されベルリン・ドイツ・オペラの専属歌手となり、以来ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイロイト音楽祭、エジンバラ音楽祭などに出演。『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『エウゲニ・オネーギン』オルガ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ラインの黄金』フリッカ、『神々の黄昏』ヴァルトラウテ、『タンホイザー』ヴェーヌス、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『青ひげ公の城』ユディットなどを歌っている。新国立劇場には2003年『フィガロの結婚』ケルビーノで初登場し安定した美声と豊かな声量で多くのファンを獲得。続く『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『こもり』オルロフスキー公爵、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ラインの黄金』と『ワルキューレ』フリッカ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネや、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』タイトルロールでも好評を博している。新国立劇場開場10周年記念オペラ・バレエガラ公演にも出演した。

愛の妙薬

2013.1/31 ~ 2/12

レパートリー
Repertory

L'elisir d'amore

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕(イタリア語上演/字幕付)

初演: 1832年5月12日 テアトロ・カノッピアーナ
作曲: ガエターノ・ドニゼッティ Gaetano Donizetti (1797-1848)
台本: フェリーチェ・ロマーニ Felice Romani

嘘と薬とまことの恋。幸せな気持ちになれるベルカント・オペラの名作!

演目選定にあたって

“イタリア・オペラにオペラの原点を置く考え方は不動のもの。オペラはやはり、声の饗宴であることが大変重要だ”。こう考える尾高芸術監督任期3シーズン目の演目選定では、名実ともに高い人気を誇るヴェルディ、プッチーニのみならず、素晴らしい作品を世に送り出した他の作曲家たちも取り上げます。イタリア語で“美しい声のオペラ”を意味するベルカント・オペラの代表作でもあるドニゼッティの傑作『愛の妙薬』。ロッシーニやベッリーニと並び19世紀のイタリア・オペラにおける重要人物で、ドニゼッティなくしてヴェルディも、プッチーニも語ることはできません。このプロダクションは、2009年にリエヴィの演出で新制作されたものです。『トリスタンとイゾルデ』の恋話を聞いた青年ネモリーノが、村一番の美人アディーナへの恋に目覚め奮闘する物語。9メートルもある本や文字、実物大の小型飛行機などを舞台上に登場させながら、遊び心と的確な心理描写で好評を博したプロダクションです。ネモリーノ役には09年『チェネントラ』で大好評を博したシラゲーザ、アディーナ役には甘く美しい声で飛躍的に活動の場を広げるキャベル(12年4月の『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラにも出演予定)、ベルコーレ役には11年高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演)の同役で高校生たちの心をつかんだ成田博之が本公演の舞台に立ちます。尾高芸術監督は、新国立劇場第二代オペラ芸術監督でもある故五十嵐喜芳氏と何度も共演した作品で、氏のアリア〈人知れぬ涙〉の名唱が多くの人の心に焼き付いている、思い出深い名作でもあると語っています。

作品解説

伝統的なオペラ・ブッフアの喜劇の世界に、ロマンチックな哀愁のメロディを盛り込んだことで多くの人の共感を勝ち取ったドニゼッティの最高傑作『愛の妙薬』。他にも『ランメルモールのルチア』など70ものオペラを作曲していますが、大成功を収めた1832年の初演は、“音楽は最初から最後まで美しい”“ドニゼッティ万歳”と新聞各紙で絶賛を浴び、一躍大人気作品として1ヶ月連続上演されました。恋心を思うように伝える事が出来ない主人公ネモリーノの判りやすい人物像に加えて、ヒロインであるアディーナの賢さや心が揺れ動くさまが、メロディの力で素直に伝わってきます。ネモリーノの名アリア〈人知れぬ涙〉が聴きどころになるのは勿論のこと、敵役軍曹ベルコーレの明るい持ち味、ドゥルカマーラの軽妙なキャラクターなどドニゼッティの音楽の冴えを実感できる音楽が随所にちりばめられ、合唱のきびきびした歌声も舞台を大いに盛り上げます。物語の伏線として、服毒自殺を図ろうとしたが、毒薬とすり替えられた愛の媚薬によって激しい恋に落ちる『トリスタンとイゾルデ』の物語が使われています。

あらすじ

バスク地方の農村。村人たちが集い、農場の娘アディーナはひとり本を読んでいる。青年ネモリーノは、彼女に恋しているが見向きもされない。軍曹のベルコーレもアディーナに目を留める。インチキ薬売りのドゥルカマーラが村にやってきて、ただのワインを一日後に効き目が出る“愛の妙薬”（惚れ薬）と偽りネモリーノに売りつける。軍曹がアディーナに“指令で別の土地に移動することになってしまった。今日中に結婚しよう”と告げる。ドゥルカマーラから買った惚れ薬の効果が出る前に、アディーナを恋敵に奪われまいとして、結婚を1日だけ待ってほしいと懇願するネモリーノをベルコーレが罵る。ネモリーノはひとり、インチキ薬売りに助けを求める。結婚を控えたアディーナと軍曹の祝いの席。彼女は、ネモリーノが見当たらないことに気づく。ドゥルカマーラは花嫁を相手に余興の芝居を行う。一方、ネモリーノは高価な妙薬の代金に充てるため、ベルコーレに入隊を志願する。村娘ジャンネッタが現れ、ネモリーノに莫大な遺産が転がり込んだと村の娘たちと噂する。これを知らないネモリーノは、突然もてはやされたのは薬の効き目だと勘違い。アディーナは、ネモリーノが自分のために軍隊に入ったと聞き、その強い愛情に心を動かされ、ネモリーノの入隊契約書を買戻す。ネモリーノも彼女の本心を悟って名アリア〈人知れぬ涙〉を歌う。本心を打ち明けた二人は結ばれ、ベルコーレは潔く二人を祝福する。村を去っていくドゥルカマーラを、一同がにぎやかに見送る。



2010年公演より

G.ドニゼッティ

愛の妙薬

L'elisir d'amore / Gaetano Donizetti

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………ジュリアン・サレムクール
Conductor Julien Salemkour

演出……………チェーザレ・リエヴィ
Production Cesare Lievi

美術……………ルイジ・ペーレゴ
Scenery Design Luigi Perego

衣裳……………マリーナ・ルクサルド
Costume Design Marina Luxardo

照明……………立田雄士
Lighting Design Tatsuta Yuji

アディーナ……………ニコル・キャベル
Adina Nicole Cabell

ネモリーノ……………アントニーノ・シラゲーザ
Nemorino Antonino Siragusa

ベルコーレ……………成田博之
Belcore Narita Hiroyuki

ドゥルカマーラ……………レナート・ジローラミ
Dulcamara Renato Girolami

ジャンネッタ……………九嶋香奈枝
Giannetta Kushima Kanae

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京交響楽団
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

2013年1月31日(木) 7:00 9日(土) 2:00
2月 3日(日) 2:00 12日(火) 2:00
6日(水) 7:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 23,100円・A : 18,900円・B : 12,600円・C : 7,350円・D : 4,200円

【前売開始】2012年10月13日(土)

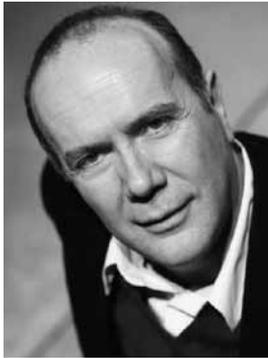
愛の妙薬

L'elisir d'amore / Gaetano Donizetti

指揮：ジュリアン・サレムクール

Conductor : Julien Salemkour

フランス生まれ。9歳でピアノを習う。16歳でハノーファー音楽大学に入学、和声と対位法をA.ケルベンに師事。卒業後、ザルツブルクでH.H. イェリスとM.ギーレンに指揮を学ぶ。2001年よりベルリン州立歌劇場では、D. バレンボイムが信頼を置くアシスタントとして、急な指揮者変更を含め200公演以上のオペラ、交響曲、バレエを指揮。オーケストラとの信頼関係を確立し、バランスのとれた音楽創りが高く評価されている期待の若手指揮者。これまでに、ザクセン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座に客演指揮者として登場しているほか、コンサートの指揮も多い。『魔笛』『ドン・ジョヴァンニ』『コジファン・トゥッテ』『フィガロの結婚』『セビリアの理髪師』『トゥーランドット』『トスカ』『運命の力』『アイーダ』『ドン・カルロ』『マクベス』『ノン』『カーチャ・カバノヴァー』『ローエングリン』『サロメ』『ロミオとジュリエット』『白鳥の湖』など幅広いレパートリーを持つ。11年にベルリン州立歌劇場からカペルマイスターの称号を授与される。新国立劇場初登場。



演出：チェーザレ・リエヴィ

Production : Cesare Lievi

イタリア北部・ロンバルディア州生まれ。イタリア、ドイツ、オーストリアで80年代に舞台演出家として成功を果たす。ゲーテ、クライスト、ホフマンスタール、チェーホフ、アーサー・ミラーなど、外国作家の劇作を意欲的にイタリア国内外で上演しつづけた。なかでもゲオルク・トラークル作の『青ひげ』が84年にヴェネツィア・ビエンナーレにて大成功を収めた事は特筆に価する。また、オペラにおいてはミラノ・スカラ座にてシーズンオープニングの『パルジファル』、ウィーン国立歌劇場『ジェズアルド』、メトロポリタン歌劇場『チェネレントラ』、ベルリン・ドイツ・オペラ『マノン』、モデナ市立劇場『放蕩者のなりゆき』、レッジョ・エミリア市立劇場『ピーター・グライムズ』、カタニーニ・ベッリーニ大劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』、そしてチューリッヒ歌劇場には90年代より継続的に招かれ『妖精ヴィッリ』『道化師』『シチリア島のタベの祈り』『スティッフエーリオ』『二人のフォスカリ』『ジュリアス・シーザー』『アルジェのイタリア女』などを演出している。受賞歴では2008年度演劇批評家賞・最優秀作品賞を『1人と、もう1人』（ボート・シュトラウス作）で受賞（プレシア・サンタ・キアラ劇場）している。新国立劇場には10年『愛の妙薬』で初演出。

アディーナ：ニコル・キャベル

Adina : Nicole Cabell

アメリカ・カリフォルニア生まれ。ニューヨーク州イーストマン音楽学校院で声楽を学ぶ。シカゴ・リリック・オペラ『タイス』クロビール（奴隷女）でデビュー、その後も専属歌手として数多くのレパートリーを身につける。メトロポリタン歌劇場、ワシントン・ナショナル・オペラ、アトランタ・オペラ、プエノスアイレスのコロソ劇場などアメリカ各地に出演しているほか、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ケルン歌劇場などヨーロッパでも活躍。『愛の妙薬』アディーナ役は、2006年フランスのモンペリエ歌劇場でロールデビューし、以後得意なレパートリーとなっている。その他にも『魔笛』パミーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人とスザンナ、『イドメネオ』イーリア、『フィデリオ』マルツェリーネ、『カルメン』ミカエラ、『真珠とり』レイラ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ロメオとジュリエット』ジュリエット、『利口な女狐』タイトルロールなど幅広いレパートリーを持つ。05年BBCカーディフ国際声楽コンクール優勝。07年初来日し武蔵野市民文化会館でリサイタルを開いている。新国立劇場には、12年4月『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ役で初登場となる。



愛の妙薬

L'elisir d'amore / Gaetano Donizetti

ネモリーノ: アントニーノ・シラゲーザ

Nemorino : Antonino Siragusa

イタリア・メッシーナ生まれ。同市のアルカンジェロ・コレッリ音楽アカデミーで学ぶ。1996年にレッツェで『愛の妙薬』ネモリーノを歌ってオペラデビュー。その後ミラノ・スカラ座に『ドン・ジョヴァンニ』『ドン・オッターヴィオ』でデビュー。その後もイタリア各地の歌劇場に出演し、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）、チューリッヒ歌劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『アルジェのイタリア女』『リンドーロ』『夢遊病の女』エルヴィーノ、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチオ、『セミラーミデ』イドレーノ、『ドン・パスクワレ』エルネスト、『チェネレントラ』『ドン・ラミーロ』のほか、『清教徒』『ファルスタッフ』『セビリアの理髪師』『愛の妙薬』『真珠とり』『連隊の娘』『ウィリアム・テル』『ランスへの旅』など幅広いレパートリーを誇る。最近では藤原歌劇団公演『セビリアの理髪師』（2011年）アルマヴィーヴァ伯爵や、急遽代役を務めたポローニャ歌劇場『清教徒』アルトゥーロで大喝采を浴びた。新国立劇場には02年『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵で初登場し、09年『チェネレントラ』に続き、3回目の登場。



ベルコーレ: 成田博之

Belcore : Narita Hiroyuki

宮城県出身。国立音楽大学声楽学科卒業。同大学院オペラコース修了。二期会オペラ研修所修了。文化庁オペラ研修所修了。第8回日本声楽コンクール第1位。第69回日本音楽コンクール第3位入賞。同時に木下賞を受賞。第5回藤沢オペラコンクール第2位入賞など、数々の栄誉に輝く。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアにて研修を積む。2003年アテネで開催された「国際ミトロプーロス声楽コンクール」で最高位入賞（順位なし）。『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『セビリアの理髪師』フィガロ、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『カルメン』エスカミーリョなどのほか、『祝い歌が流れる夜に』や『那須与一』など日本オペラにも出演。また東京二期会『ラ・ボエーム』マルチェッロといずれも好評を博す。新国立劇場には07年『西部の娘』ベッコ、10年『アンドレア・シェニエ』ルーシェ、『トリスタンとイゾルデ』舵取り、平成22年度高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』シャープレスと平成23年度『愛の妙薬』ベルコーレなどに出演、平成24年度の関西公演『愛の妙薬』にも出演が決まっている。12年2月の『沈黙』ヴァリニャーノにも出演。二期会会員。

ドゥルカマーラ: レナート・ジローラミ

Dulcamara : Renato Girolami

イタリア・ウンブリア州生まれ。ローマでブルスカンティーニに、ミュンヘン音楽大学でE.ヘフリガーに師事したほか、ベルリンでD.F.ディスカウのマスタークラスを受講。1986/1987のシーズンにパッサウとザルツブルクでオペラのキャリアをスタート。ザルツブルクで歌ったレポレッコが高い評価を受け、ウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。91年から96年までウィーン国立歌劇場の専属歌手として多くの舞台に立つ。他にもミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場などに出演。『フィガロの結婚』フィガロ、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ、『愛の妙薬』ドゥルカマーラとベルコーレ、『セビリアの理髪師』バルトロ、『アルジェのイタリア女』タッデオ、『蝶々夫人』シャープレス、『運命の力』メリーネなど幅広いレパートリーを持つ。日本では、93年にサントリーホールで『ラ・ボエーム』ショナールを歌っている。今後の予定としては、アムステルダム、バルセロナ、ミュンヘンで『イタリアのトルコ人』ドン・ジェロニオ、ハンブルクとミュンヘンでドゥルカマーラとバルトロ、バルセロナとミュンヘンで『運命の力』メリーネを歌う。新国立劇場初登場。



愛の妙薬

L'elisir d'amore / Gaetano Donizetti

ジャンネッタ: 九嶋香奈枝

Giannetta : Kushima Kanae

札幌市出身。東京藝術大学卒業。在学中に文化庁芸術祭オペラ『フィガロの結婚』スザンナに出演。新国立劇場研修所第4期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノへ留学。第54回全日本学生音楽コンクール大学・一般の部全国1位受賞。HIMSコンクール第1位受賞。2005年にはギリシャ・アテネ新国立劇場オープン記念公演ミハエル・ハンベ演出『魔笛』に招聘され15公演に出演し好評を博す。07年東京二期会『魔笛』パバゲーナに抜擢。新国立劇場では、こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』『スペース・トゥーランドット』などに出演し常に輝きを見せている。新国立劇場本公演では『トスカ』羊飼いの、『愛の妙薬』ジャンネッタに出演、ジャンネッタ役で平成23年度高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演にも出演、平成24年度の関西公演にも出演が決まっている。11年新国立劇場『コジ・ファン・トゥッテ』（演奏会形式）デスピーナに出演し存在感あるチャーミングな歌唱で注目を集めた。また新国立劇場バレエ公演ドミニク・ウォルシュ演出エメラルド・プロジェクト『オルフェオとエウリディーチェ』アムール（歌手）にも出演。二期会会員。



アイーダ

レパートリー
Repertory

Aida

オペラパレス | 7回公演 | 全4幕(イタリア語上演/字幕付)

初演: 1871年12月24日 カイロ歌劇場

作曲: ジュゼッペ・ヴェルディ (1813-1901) Giuseppe Verdi

台本: アントーニオ・ギスランツォーニ Antonio Ghislanzoni

天に向かって凱旋する愛。巨匠ゼッフィレリによる圧巻の舞台再び！

演目選定にあたって

新国立劇場開場15周年とヴェルディ生誕200周年を記念し、劇場の財産ともいえるこの祝祭的な作品を上演します。1998年に開場記念公演として新制作されたゼッフィレリ演出の豪華絢爛なプロダクションは、これまで開場10周年記念など重要な節目ごとに上演を重ねてきました。新国立劇場オペラでも不動の人気を誇る作品で、お客様から再演を求める声が非常に高く、オペラのファン層拡大の視点からも重要なプロダクションといえます。新国立劇場ならではのダイナミックな舞台転換や、300名を超える歌手、合唱、助演、バレエが出演する凱旋の場では大スペクタクルを展開。オペラファンならずとも、一度は観てみたい舞台と言っても過言ではありません。今回タイトルロールにドラマティックな美声で世界の一流歌劇場を舞台に活躍するカロージ、ラダメス役に2009年に新国立劇場『トスカ』のカヴァラドッシを熱唱したヴェントレ、その他国内外から魅力的なキャストが集まります。指揮は“初演をも超える出来栄”と好評を博した10年『フィガロの結婚』(再演)で好評を博したギュットラー。尾高芸術監督は、祈りを込めて以下のコメントを残しています。「以前、大不況時のミラノで観た『アイーダ』公演で、経済的危機の時代にあっても、芸術を大事にする国と人々の姿に感動しました。1998年の新国立劇場初演時、巨匠ゼッフィレリが、《日本という国は、素晴らしい人々と偉大な伝統文化を持つ国です。そして、文化と音楽に対する希望を持ち、その希望を追求する点で、世界に先んじている国であるように私には思えます(公演プログラムより)》と語っているように、彼が新国立劇場に残して下さった財産を守り、この公演と芸術の力によって劇場からお客様や世の中に向け、活力を発信したいと思っています」。

作品解説

巨匠ヴェルディの最高傑作ともいわれる『アイーダ』は、ヴェルディが58歳の最も油が乗り切った時期の作品です。スエズ運河の開通を記念して建設された、アフリカで初めてのオペラハウス、カイロ歌劇場で初演されました。1か月後のスカラ座公演ではアンコールが40回も続くほどの大成功を収め、その後も世界のオペラハウスの重要なレパートリーとして、美しいアリアや華やかな舞台でオペラ初心者から熱心なファンまで魅了し続けています。物語は、古代エジプトの若く勇敢な戦士ラダメスと、敵国エチオピアの王女でありながらエジプトの王女の奴隷として仕えるアイーダの純粋で一途な愛がテーマとなっています。作品前半では、ラダメスの堂々としたアリア〈清きアイーダ〉や、アイーダの複雑な心理を吐露するアリア〈勝ちて帰れ〉、そして、バレエも挿入されたスペクタクルなシーンに響き渡る〈凱旋行進曲〉と、光り輝く珠玉の名曲が続きます。第3幕以降になると、恋人たちの愛、アイーダの父への想い、誇りと嫉妬など心理的葛藤が、登場人物たちの愛と運命の糸と複雑に絡み合っていきます。最終場、アイーダとラダメスの二重唱〈運命の岩がとざされた〉では、死を超越

した二人の愛が魂となって天へ昇華する場面の静かで清らかな音楽が、極上の響きとなって人々の心に響きます。

なお、サッカーの応援歌としてもなじみの深い〈凱旋行進曲〉。ここに登場するアイーダ・トランペットは、ファンファーレ・トランペットの一種で、ヴェルディが〈凱旋行進曲〉のメインとなるこの旋律のために特注で作らせたものです。通常使用するトランペットは扱いやすいように管をくねくねと曲げていますが、特別にこのトランペットは管長が約1.2mもあります。ワーグナーも『ローエングリン』で王の登場シーンのためにケーニッヒ・トランペット（王様のトランペット）を作らせており、作品特有の楽器に注目するのもオペラの愉しみの一つです。

あらすじ

古代エジプト。エジプト軍の若い将軍ラダメスは、王女アムネリスに仕えるアイーダを敵国エチオピアの王女とは知らずに密かに愛し合っている。ラダメスは神託によってエチオピア征伐軍の総司令官に任命される。人々は「勝ちて帰れ」と若者を激励するが、アイーダは愛するラダメスへの愛と、祖国エチオピアへの想いの間で苦しむ。アムネリスもラダメスを愛していたため、自分の女奴隷とラダメスの関係を疑い、アイーダにラダメスが戦死したと嘘を言う。アイーダの動揺を見て、自分と同じ男性を愛するライバルであることが分かり、嫉妬に燃えるアムネリス。エジプト軍の勝利を祝う式典が行われ、群衆がラダメスが率いるエジプト軍の凱旋を迎える。きらびやかな戦利品に続く捕虜の中に、アイーダの父であり、エチオピア国王の身分を隠したアモナズロがいる。エジプト王は、戦勝の報奨としてラダメスにアムネリスとの結婚を命じる。夜のナイル河畔に、アイーダがラダメスとの密会のためにやってくると、父アモナズロが現れて祖国のためにラダメスから軍事機密を聞き出すよう密命を下す。アイーダに情報を話してしまったラダメスは謀反人として捕らえられ投獄される。アムネリスは自分を愛せば命を救おうとラダメスに迫るが、彼は決然として応じようとせず、やがて裁判で死刑を宣告される。地下牢で独り死を待つラダメスの前に牢に忍びこんでいたアイーダが現われ、二人は永遠の愛を誓いながら死を待つ。地上ではアムネリスが死者の冥福を祈り続ける。



2003年公演より

G. ヴェルディ

アイーダ

Aida / Giuseppe Verdi

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮…………… ミハエル・ギュットラー
Conductor Michael Güttler

演出・美術・衣裳…………… フランコ・ゼッフィレリ
Production, Scenery & Costume Design Franco Zeffirelli

照明…………… 奥畑康夫
Lighting Design Okuhata Yasuo

振付…………… 石井清子
Choreographer Ishii Kiyoko

アイーダ…………… ミカエラ・カロージ
Aida Micaela Carosi

ラダメス…………… カルロ・ヴェントレ
Radames Carlo Ventre

アムネリス…………… マリアンネ・コルネッティ
Amneris Marianne Cornetti

アモナズロ…………… 堀内康雄
Amonasro Horiuchi Yasuo

ランフィス…………… 妻屋秀和
Ramfis Tsumaya Hidekazu

エジプト国王…………… 平野 和
Il Re Hirano Yasushi

伝令…………… 樋口達哉
Un messaggero Higuchi Tatsuya

巫女…………… 半田美和子
Sacerdotessa Handa Miwako

合唱…………… 新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽…………… 東京交響楽団
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

2013年3月11日(月) 6:00 20日(水・祝) 2:00 30日(土) 2:00
14日(木) 2:00 24日(日) 2:00
17日(日) 2:00 27日(水) 6:00
オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 28,350円・A : 23,100円・B : 15,750円・C : 10,500円・D : 5,250円

【前売開始】2012年11月24日(土)

アイーダ

Aida / Giuseppe Verdi

指揮：ミヒャエル・ギュットラー

Conductor : Michael Güttler

ドイツ・ドレスデン生まれ。ヴァイオリン、トランペット、ピアノ、合唱指揮を学んだ後、カール＝マリア・フォン・ウェーバー音楽大学でオーケストラ指揮を専攻。バーンスタイン、チェリビダッケ、カリディス、ムーシン、ゲルギエフなどのマスタークラスにも数多く参加。数多くの指揮者コンクールで優勝。2002年よりマリンスキー劇場の客演指揮者として、『ニーベルングの指環』『トリスタンとイゾルデ』『ファルスタッフ』『ドン・カルロ』『アイーダ』『椿姫』『フィガロの結婚』『ナクス島のアリアドネ』『ランメルモールのルチア』などを振る。03年1月と3月にマリンスキー劇場で、急遽ゲルギエフの代役として『ニーベルングの指環』と『パルジファル』を振り、一躍注目を集める。これまでにウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、シャンゼリゼ劇場、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ナポリのサン・カルロ歌劇場などに客演しているほか、オーケストラとの活動も多い。今後の予定としては、マリンスキー劇場のほか、ウィーンで『エウゲニオ・オネーギン』『ナブッコ』『セビリアの理髪師』のほか、フランクフルトで『後宮からの誘拐』、ニースで『エレクトラ』などが挙げられる。新国立劇場では10年『フィガロの結婚』で登場。



演出・美術・衣装：フランコ・ゼッフィレリ

Production, Scenery & Costume Design : Franco Zeffirelli

1923年イタリアのフィレンツェに生まれる。46年ヴィスコンティと出会ったのをきっかけに、彼の助手を務める。53年ミラノ・スカラ座の『チェネントラ』で演出家デビュー。60年ロンドンのオールド・ビック劇場で演劇『ロミオとジュリエット』、63年ミラノ・スカラ座で『アイーダ』演出のほか、映画など様々なジャンルで活躍している。リアリズムを主軸として、音楽とドラマを視覚的な美しさで見せるその演出は、彼自身のデザインによる絢爛豪華な装置、衣裳も含め高く評価されている。これまでの来日公演には、ミラノ・スカラ座による『オテロ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』、メトロポリタン歌劇場『カルメン』『椿姫』などがある。最近では、映画『ムッソリーニとお茶を』『永遠のマリア・カラス』などで日本でも話題を集めた。2006/2007シーズンはミラノ・スカラ座で『アイーダ』の新演出に取り組んだ。

アイーダ：ミカエラ・カロージ

Aida : Micaela Carosi

イタリア生まれ。世界の一流歌劇場で活躍しているドラマティック・ソプラノ。ローマ大学で近代文学を学んだ後、オペラを学ぶ。2001年にスポレート・リリコ劇場コンクールで優勝し、同市でヴェルディ1作目のオペラ『サン・ボニファチオ伯爵オベルト』レオノーラを歌ってオペラデビューを果たす。以来、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、チューリッヒ歌劇場、パリ・オペラ座（バ스티ーユ）、ローマ歌劇場、ヴェローナ野外劇場、フェニーチェ歌劇場、トリノ歌劇場、スペインのリセウ劇場などに出演。『アイーダ』『ノルマ』『トスカ』『蝶々夫人』『マノン・レスコー』『アドリアーナ・ルクヴール』のタイトルロール、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『オテロ』デズデーモナ、『シモン・ボッカネグラ』アメリア・グリマルディ、『ナブッコ』アビガイル、『運命の力』レオノーラ、『仮面舞踏会』アメリア、『二人のフォスカリ』ルクレツィア・コンタリーニ、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナなど幅広いレパートリーを持つ。09年のミラノ・スカラ座日本公演『ドン・カルロ』エリザベッタで来日し、情感のこもったよく響く美声で好評を博した。新国立劇場初登場。



アイーダ

Aida / Giuseppe Verdi

ラダメス: カルロ・ヴェントレ

Radames : Carlo Ventre

ウルグアイ・モンテビデオ生まれ。1994年にミラノ・スカラ座で、ムーティ指揮の『リゴレット』マントヴァ公爵でオペラデビュー。ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ライプツィヒ歌劇場、フランクフルト歌劇場、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座（バステューユ）、バルセロナのリセウ劇場、ヴェローナ野外劇場、シカゴ・リリック・オペラ、サンディエゴ歌劇場など世界各地で活躍。当たり役の『アイーダ』ラダメスを初めとする一連のヴェルディ作品『リゴレット』『イル・トロヴァトーレ』『シモン・ボッカネグラ』『運命の力』『ドン・カルロ』『オテロ』、プッチーニ作品『マノン・レスコー』『トスカ』『蝶々夫人』『トゥーランドット』のほか、『カルメン』『アンドレア・シェニエ』『アドリアーナ・ルクヴルール』など幅広いレパートリーを誇る。2007年にバレルモのマッシモ劇場日本公演で『シチリアの夕べの祈り』アッリーゴを歌っている。12年後半以降の主な予定としては、12月にポローニャ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、13年1月にハンブルク州立歌劇場で『マノン・レスコー』、5月・6月にフランクフルト・オペラで『西部の娘』ディック・ジョンソン（ロールデビュー）、9月にフランクフルト歌劇場で『シチリアの夕べの祈り』、14年1月・2月にサンディエゴで『道化師』などが挙げられる。新国立劇場には、09年『トスカ』カヴァラドッシで初登場。



アムネリス: マリアンネ・コルネッティ

Amneris : Marianne Cornetti

アメリカ・ペンシルバニア生まれ。メトロポリタン歌劇場、ピッツバーグ・オペラなどで経験を積んだ後、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナでミラノ・スカラ座、ヴェローナ野外劇場、ローマ劇場の舞台に立ち、良く伸びる豊かな声量と情感溢れる熱唱で一躍脚光を浴び、国際的キャリアのスタートを切る。以来、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）、英国ロイヤルオペラ、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、ブレゲンツ音楽祭、サヴォンリナ音楽祭などに出演。『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『アイーダ』アムネリス、『仮面舞踏会』ウルリカ、『ドン・カルロ』エボリ、『マクベス』マクベス夫人、『ナブッコ』アビガイッレなどヴェルディ作品では特に世界的にトップレベルのメゾ・ソプラノとして高く評価されている。他にも『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『ジョコンダ』ラウラ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ローエングリン』オルトルートなど幅広いレパートリーを持つ。日本では、2001年ダニエル・オーレン指揮の『ドン・カルロ』エボリ、06年ポローニャ歌劇場日本公演『イル・トロヴァトーレ』アズチーナを歌っている。新国立劇場には2012/2013シーズンには一世を風靡した『ナブッコ』アビガイッレでも登場予定。新国立劇場初登場。

アモナズロ: 堀内康雄

Amonasro : Horiuchi Yasuo

東京都出身。慶応大学法学部卒業後、ミラノ・ヴェルディ音楽院へ留学。1993年第39回トゥールーズ国際コンクールにて優勝。その後、多数の国際コンクールで優勝、入賞を果たす。94年フェニーチェ歌劇場の『ラ・ボエーム』でデビュー。以後同劇場の『リゴレット』、ローマ歌劇場『マクベス』、プッセート・ヴェルディ・フェスティバル『ナブッコ』などのオペラやコンサートで活躍。日本では97年藤原歌劇団『椿姫』および『マクベス』でデビューし好評を博す。その後、『ラ・トラヴィアータ（椿姫）』での連続出演の他『ラ・ボエーム』『ルチア』『アドリアーナ・ルクヴルール』ミシヨネなどでも活躍し、びわ湖ホール『アッティラ』『シチリア島の夕べの祈り』、ラ・ヴォーチェ公演『ルチア』などでも艶やかな美声と集中力のある演技で高い評価を得ている。新国立劇場には98年開場記念公演・03年08年の『アイーダ』公演全てにアモナズロで出演し、このプロダクションには欠かせない存在である。また、『仮面舞踏会』レナート、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『ドン・カルロ』ロドリゴ、03年『ラ・ボエーム』マルチェッロ、10年『ニューイヤーオペラパレスガラ』など、主要役で数多く出演している。藤原歌劇団団員。



アイーダ

Aida / Giuseppe Verdi

ランフィス: 妻屋秀和

Ramfis : Tsumaya Hidekazu

松江市出身。東京芸術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994年から2001年ライブツィヒ歌劇場、02年より11年までワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリップポ二世、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイーダ』『ファルススタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演している。2011/2012シーズンは『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長で出演。2012/2013シーズンは『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『ナブッコ』ベルの祭司長でも出演予定。藤原歌劇団団員。



エジプト国王: 平野 和

Il Re : Hirano Yasushi

東京都出身。日本大学芸術学部、ならびにウィーン国立音大修士課程を首席で修了。末芳枝、R. ハンスマン、R. ホルの各氏に師事。2007年グラーツ歌劇場と、08年よりウィーン・フォルクスオーパーと専属歌手として契約。ザルツブルグ・ブレゲンツなど主要な国際音楽祭、ウィーン楽友協会・ベルリンフィルハーモニーなど主要ホールに客演し、N. アーノンクール、G. アルブレヒト、B. ヴァイルといった著名な指揮者のもとソリストを務める。バロックから現代にいたるまで広範囲をレパートリーとする。2010/2011シーズンはウィーン・フォルクスオーパーで『魔笛』弁者と武士、『椿姫』医師グランヴィル、『チェネレントラ』アリドーロ、『リゴレット』スバラフチーレなどで出演予定。新国立劇場には10年『影のない女』霊界の使者で初登場、12年4月『ドン・ジョヴァンニ』にレポレッコで出演予定。ウィーン在住。

魔笛

2013.4/14～21

レパートリー
Repertory

Die Zauberflöte

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初演：1791年9月30日 アン・デア・ウィーン劇場

作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

台本：ヨハン・エマヌエル・シカネーダー Johann Emanuel Schickaneder

新国立劇場の舞台空間いっぱい広がるメルヘンの世界！ 天才モーツァルト最後の傑作。

演目選定にあたって

1998年に新制作されたハンペ演出によるファンタジックなプロダクション。新国立劇場オペラのレパートリー作品では、開場記念公演『アイダ』の次に長く上演されている人気プロダクションです。オペラのラインアップに必要なモーツァルト作品から、最晩年の傑作を入れました。海外では、『魔笛』でオペラデビューする子どもが多く、日本でも新学期、新生活のスタートとなるこの時期に、親子でオペラハウスに足を運んでいただくきっかけになればと願っています。今回特筆すべきは意欲的なキャスティングでしょう。これまで尾高芸術監督は任期1年目の『コジ・ファン・トゥッテ』、2年目の『ドン・ジョヴァンニ』共にカバー歌手による演奏会形式オペラを特別企画公演として立ちあげ、日本人歌手の活躍の場を広げ、音楽に集中して作品をお楽しみいただくと、高く評価されました。今回はモーツァルトのオペラの中でも親しみやすい作品の一つである『魔笛』を取り上げ、歌手全役に日本人を配しました。指揮には2011年10月の『サロメ』で急遽代役として新国立劇場に初登場し、R.シュトラウスの美しく濃厚な音楽で絶賛を博したヴァイケルトを迎えます。彼の熟練した音楽創りのもと、アンサンブルを得意とする日本人歌手たちの熱演に期待が高まります。

作品解説

幼少より神童の名をほしいままにし、交響曲、協奏曲、室内楽曲、独奏曲などの器楽曲からオペラ、声楽曲まで、ほとんどすべてのジャンルで傑作を残したモーツァルトが死の年1791年に書いた傑作『魔笛』。この作品は、『後宮からの逃走』(1782年初演)より10年ぶりに作曲したジングシュピール(歌芝居)で、不朽の名作オペラ『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』と並んで、貴族中心の宮廷劇場のためではなく、一般庶民が楽しむ芝居小屋のために書かれた作品です。ドイツ語の歌とセリフでわかりやすく構成され、初演から絶大な人気を博しました。

台本が支離滅裂であるとか、メルヘンととらえる演出にするかどうかとか、モーツァルト自身もメンバーであった自由・平等・博愛といったフリーメイソンの教義と密接な関係など、様々な解釈がなされていますが、モーツァルトがその生涯の中で蓄えた音楽的素養の凝縮といえるほどの美しい音楽で綴られています。“モーツァルトに端役なし”という言葉があるように、登場人物全てが主役級の音楽性、テクニック、演技力を要求されます。公演を見たゲーテが感動のあまり『魔笛 第2部』を書き始めた程の名作で、聴き所も満載です。モーツァルトを歌うテノール歌手にとっての試金石ともいわれる王子タミーノがパミーナの絵姿に一目で恋に落ちる〈絵姿のアリア〉、超絶技巧の高音コロラトゥーラの歌唱で、夜の女王の燃え上がる復讐心を描く二つのアリア、パパゲーノの軽快なアリア〈おいらは鳥刺しパパゲーノ〉やパパゲーナとの〈パ・パ・パ〉の二重唱等、聴きどころに事欠きません。

あらすじ

エジプトの森。怪物に襲われた王子タミーノを三人の侍女が救う。鳥刺しパパゲーノが現れ、タミーノにほらを吹くので侍女たちが罰を与える。夜の女王はタミーノに、娘のパミーナをザラストロの悪の手から救出してほしいと頼む。王子は魔法の笛を手にし、鳥刺しは不思議な鈴を貰う。ザラストロの城内で奴隷頭のモノスタスがパミーナに迫るが、入り込んだパパゲーノと鉢合わせして逃げる。鳥刺しはパミーナに「王子が救いに来る」と告げる。三人の童子が王子を導く。彼は森で弁者と遭遇、弁者の口から、悪者はザラストロではなく夜の女王と聞かされる。城を逃げ出したパパゲーノとパミーナを奴隷たちが追い詰めるが、鳥刺しが振る鈴の音に合わせてひとりで踊り出す。現れたザラストロはパミーナを許し、モノスタスに罰を与え、王子とパミーナに試練を受けさせようと宣言する。

ザラストロは僧侶たちと王子の処遇を協議する。タミーノは試練に臨み、パパゲーノも可愛い恋人が得られると聞いてその気になる。パミーナの寝室に忍び込んだモノスタスを夜の女王が一喝、娘に剣を手渡して「ザラストロに復讐せよ」と迫る。王子たちの前に老婆が現れ、パパゲーノに呼びかけるが、雷鳴とともに消える。パミーナは沈黙の行を続ける王子に絶望する。鳥刺しは老婆の言葉にやけくそで愛を誓うが、彼女は突然パパゲーナに変身して走り去る。悲しみにくれるパミーナを童子たちが励ます。そしてパミーナは王子と共に水と火の試練に臨み、無事に耐え抜く。世をはかなむパパゲーノの前にパパゲーナが登場、二人は喜び合う。女王たちは復讐を叫ぶが、雷鳴の中、地底に沈む。ザラストロが王子とパミーナを祝福、歓びの合唱で幕となる。



2009年公演より

W.A. モーツァルト

魔笛

Die Zauberflöte / Wolfgang Amadeus Mozart

全2幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指揮……………ラルフ・ヴァイケルト
Conductor Ralf Weikert

演出……………ミヒャエル・ハンペ
Production Michael Hampe

美術・衣裳……………ヘニング・フォン・ギールケ
Scenery and Costume Design Hennning von Gierke

照明……………高沢立生
Lighting Design Takazawa Tatsuo

ザラストロ……………松位 浩
Sarastro Matsui Hiroshi

タミーノ……………望月哲也
Tamino Mochizuki Tetsuya

弁者……………大沼 徹
Sprecher Onuma Toru

僧侶……………加茂下 稔
Eingeweihter Kamoshita Minoru

夜の女王……………安井陽子
Königin der Nacht Yasui Yoko

パミーナ……………砂川涼子
Pamina Sunakawa Ryoko

侍女Ⅰ……………安藤赴美子
Erste Dame Ando Fumiko

侍女Ⅱ……………加納悦子
Zweite Dame Kanoh Etsuko

侍女Ⅲ……………渡辺敦子
Dritte Dame Watanabe Atsuko

パパゲーナ……………鵜木絵里
Papagena Unoki Eri

パパゲーノ……………萩原 潤
Papageno Hagiwara Jun

モノスタトス……………高橋 淳
Monostatos Takahashi Jun

武士Ⅰ……………羽山晃生
Erster Geharnischter Hayama Kosei

武士Ⅱ……………長谷川 顕
Zweiter Geharnischter Hasegawa Akira

ほか

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年4月14日(日) 2:00 19日(金) 6:30

17日(水) 2:00 21日(日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 21,000円・A : 15,750円・B : 10,500円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2012年12月16日(日)

魔笛

Die Zauberflöte / Wolfgang Amadeus Mozart

指揮：ラルフ・ヴァイケルト

Conductor : Ralf Weikert

オーストリアのザンクト・フローリアン生まれ。リンツのブルックナー音楽院で学んだ後、ウィーン音楽大学でH.スワロフスキーに師事。1975年にはK.ベーム本人よりカール・ベーム賞を贈られる。27歳の若さでボン歌劇場音楽監督に就任、その後フランクフルト・オペラの音楽総監督代理、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団及び州立劇場の首席指揮者、83年から92年までチューリッヒ歌劇場の音楽監督などを歴任。そのほか、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、サンフランシスコ・オペラなど世界各地の歌劇場のほか、ザルツブルク音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭、ブレゲンツ音楽祭などにも定期的に登場している。152作品ものオペラのレパートリーを持つ。オーケストラ指揮者としても活躍し、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、北京フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団といった有名なオーケストラとも共演。2008年9月より、ルツェルン音楽大学の修士コースで指揮を教えている。日本にはNHK交響楽団定期演奏会や東京交響楽団公演、二期会公演『ナクソス島のアリアドネ』などで来日。新国立劇場には11年10月『サロメ』公演の指揮者変更で急遽来日し、シュトラウスを知り尽くした手腕を発揮。大好評を博した。



演出：ミヒャエル・ハンペ

Production : Michael Hampe

ハイデルベルク生まれ。アメリカ・シラキュース大学でチェロを、ミュンヘン・ファルケンベルク・アカデミーで演技を学び、ミュンヘン大学、ハイデルベルク大学、ウィーン大学で文学・音楽学・哲学を学ぶ。哲学博士。1972年から75年マンハイム歌劇場総監督、75年から79年ケルン歌劇場総監督、85年から89年ザルツブルク音楽祭理事、ドレスデン音楽祭総監督などを歴任。また、ケルン音楽大学で教授を務めるなど、教育の分野でも活躍。ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場などのオペラハウスや、ザルツブルク、フィレンツェなどの音楽祭でオペラの演出を手がけ、多数のオペラ映画、演劇にも携わっている。日本では芸術顧問を務める横浜オペラ未来プロジェクトの『コジ・ファン・トゥッテ』『セビリアの理髪師』『フィガロの結婚』などを演出、2012年3月には神奈川県民ホール・びわ湖ホール・東京二期会・京都市交響楽団・神奈川フィルハーモニー管弦楽団共同制作『タンホイザー』演出を手掛ける。

ザラストロ：松位 浩

Sarastro : Matsui Hiroshi

京都市生まれ。大阪音楽大学卒業、同大学院修士課程歌劇専攻を全秀の成績で修了。ベルリン芸術大学在学中よりヴェルツブルク市立劇場、ダルムシュタット州立歌劇場との専属契約を経て、ザールラント州立劇場の専属首席バス歌手として招聘され現在に至る。また2002年ザルツブルク祝祭劇場『トリスタンとイゾルデ』マルケ王で指揮者・演出家のみならず国内外のメディアからも非常に高い評価を得る。ザールラント州立劇場『ドン・カルロ』フィリップ二世、『ラ・ボエーム』コッリーネで出演する他、オランダ、ルクセンブルク、スイス、オーストリアの劇場で活躍している。12年は、ザールラントで3月『パルジファル』グルネマンツ、6月『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公などに出演する。日本では10年びわ湖ホール『トリスタンとイゾルデ』マルケ王は存在感のある歌唱で好評を博した。新国立劇場には『さまよえるオランダ人』ダーラント、『魔笛』ザラストロに出演、12年4月『オテロ』ロドヴィーゴで出演予定。



魔笛

Die Zauberflöte / Wolfgang Amadeus Mozart

タミーノ：望月哲也

Tamino : Mochizuki Tetsuya

東京都出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院音楽科修士課程オペラ科修了。二期会オペラスタジオ修了。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科に在籍し研鑽を積む。第70回日本音楽コンクール第2位入賞（オペラ・アリア部門）など受賞多数。2006年ハンブルク州立歌劇場と二期会の共同制作『皇帝ティートの慈悲』（コンヴィチニー演出）タイトルロールのほか、これまでに『魔笛』タミーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『椿姫』アルフレード、『愛の妙薬』ネモリーノ、『ボッペアの戴冠』ネローネ、『エジプトのヘレナ』（日本初演）ダ＝ウド、『カプリッチョ』フラマン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『ドン・ジョヴァンニ』（宮本亜門演出）ドン・オッターヴィオなどに出演。08年ポーランド・レグニツァ市立劇場『魔笛』タミーノでヨーロッパデビュー。新国立劇場には『アラベッラ』エレメル伯爵、『ナクソス島のアリアドネ』スカラムッチョ、『フィガロの結婚』バジリオ、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラポートなどに出演。2012/2013シーズンは『ピーター・グライムズ』ホレス・アダムス、『タンホイザー』ヴァルター役でも出演予定。二期会会員。



夜の女王：安井陽子

Königin der Nacht : Yasui Yoko

東京都出身。桐朋学園大学卒業、同大学研究課修了。二期会オペラスタジオ修了。その後文化庁在外研修員としてウィーンに留学。ウィーン国立音楽大学研究課声楽科を修了。オーストリア在居中、クラゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。その後、フォアアールベルク音楽劇場『魔笛』夜の女王、プレゲンツ音楽祭およびザンクトベルテン音楽祭のオフエンバック『青ひげ』ロザリンデで好演。いずれの公演も高い評価を得た。2008年東京二期会公演『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタで国内本格デビュー。コロラトゥーラの見事な歌唱と豊かな音楽表現で一躍注目を浴びる。『魔笛』夜の女王では新国立劇場をはじめ日生劇場、東京二期会オペラ劇場などで高度なテクニックを披露し存在感を示した。新国立劇場では『魔笛』夜の女王、『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』躰子に出演し、好評を博した他、11年4月『ばらの騎士』でカヴァーとしてキャストイングされていたゾフィー役で急遽本公演に立ち、見事な歌唱で喝采を浴びた。小劇場オペラ『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナおよびヒメーナ、バレエ公演『カルミナ・ブラーナ』（ソプラノ・ソロ）にも出演している。二期会会員。

パミーナ：砂川涼子

Pamina : Sunakawa Ryoko

沖縄県出身。武蔵野音楽大学声楽学科首席卒業。同大学大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位および特別賞受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。2001～04年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、05年より再度留学。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的なオペラデビュー。07年藤原歌劇団に『イル・カンピエロ』ガスパリーナでデビューし『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミなどでも主演。その後日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、10年愛知トリエンナーレ『ホフマン物語』アントニアに出演。今後は12年3月藤原歌劇団『フィガロの結婚』伯爵夫人に出演する。新国立劇場には、『トゥーランドット』リュウ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『魔笛』パミーナなどで出演。特に03年『ホフマン物語』アントニアは、最終公演に代役出演して絶賛を博し、05年の再演では本キャストとして成功を収めた。藤原歌劇団団員。



魔笛

Die Zauberflöte / Wolfgang Amadeus Mozart

パパゲーナ: 鵜木絵里

Papagena : Unoki Eri

東京都出身。東京藝術大学卒業。同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。イタリア政府給費生としてミラノ市立音楽学校に留学。イタリアオルヴェート国際コンクール2位入賞。『魔笛』パパゲーナ、『カルメン』ミカエラとフラスキータ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『皇帝ティートの慈悲』セルヴィーリア、日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』グレーテルなどに出演。2000年のDAN YEAR2000公演オペラ『ちゃんちき』では、子狐のぼう役に抜擢され絶賛された。01年イタリア中部オルヴェートのテアトロ・マンチネッリ劇場『ファルスタッフ』ナンネッタに出演。同年二期会創立50年記念公演『ホフマン物語』オランピアにて二期会本公演デビュー、卓抜した歌唱とコミカルな演技で喝采を浴びた。文化庁オペラ公演『小さなエントツそうじ屋さん』、日中国交正常化30周年記念中国北京公演オペラ『ちゃんちき』、神奈川県民ホール開館30周年記念『愛の白夜』ダニエル少年で出演。新国立劇場には『アラベッタ』フィアッカミッリ、『魔笛』パパゲーナに出演。小劇場オペラ『ねじの回転』にも出演している。2012/2013シーズンは『ピーター・グライムズ』姪1にも出演予定。二期会会員。



パパゲーノ: 萩原潤

Papageno : Hagiwara Jun



群馬県出身。東京藝術大学および同大学院修了。二期会オペラスタジオ41期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡独。ベルリン音楽大学大学院で学ぶ。オペラ歌手の登竜門として知られているドイツ・ラインスベルク音楽祭では500名の中から『セビリアの理髪師』のフィガロに選ばれ、“輝かしい声を持つ日本人”と絶賛された。2000年にはブランデンブルク劇場ヘンデル『セルセ』、01年にはベルリン州立歌劇場管弦楽団と共演。03年ハイデルベルク『こもり』やセルビア・モンテネグロでマーラーの歌曲を好演するなどドイツを中心にヨーロッパで活動。国内では東京二期会公演の『魔笛』パパゲーノ、『ニュルンベルクのマイスター・ジンガー』ベックメッサー、『ラ・ボエーム』ショナール、二期会創立60周年記念公演『トゥーランドット』ピン役などに出演。新国立劇場では『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、『トゥーランドット』ピン、『魔笛』弁者、『アラベッタ』ドミニク伯爵、コンサート・オペラ『ポッペアの戴冠』セネカの友人／警察官／執政官、『アンドレア・シュニエ』フレヴィル、『ラ・ボエーム』ショナールなどに出演多数。二期会会員。

モノスタトス: 高橋 淳

Monostatos : Takahashi Jun

埼玉県出身。東京音楽大学卒業、同大学院及び二期会オペラスタジオマスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。2001年『ホフマン物語』で二期会オペラデビュー後、『イエヌーファ』『魔笛』などに立て続けに出演。06年には『皇帝ティートの慈悲』表題役において、演出家P.コンヴィチユニーの高い要求に応えた。08年6月『ナクソス島のアリアドネ』では、これまでのキャラクターとは一線を画すテノール歌手・バッカス役を演じ絶賛された。びわ湖ホール、東京二期会公演の『サロメ』ヘロデや、日生劇場ヤナーチェック『マクロプロス家の事』に出演するなどめまぐるしい活躍を続けている。東京文化会館50周年記念公演フェスティバル記念オペラ『古事記』スサノヲでは確かな歌唱力で公演の成功に貢献している。新国立劇場には02年小劇場オペラ『賢い女』で初登場。05年『ルル』アルヴァ、06年『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドでは、それぞれ急遽代役として舞台に立ち、その後も『さまよえるオランダ人』『タンホイザー』『軍人たち』のほか、『ラインの黄金』ミーメ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ポロ服の男などに出演いづれの公演でも高い評価を得ている。2012/2013シーズンでは『ピーター・グライムズ』ボブ・ボウルズ、『タンホイザー』ハインリヒでも出演予定。二期会会員。



ナブッコ

2013.5/19 ~ 6/4

新制作
New Production

Nabucco

オペラパレス | 6回公演 | 全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1842年3月9日 ミラノ・スカラ座

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ Giuseppe Verdi (1813-1901)

台本：テミストクレ・ソレラ Temistocle Solera

若きヴェルディの出世作。古代バビロニア王ナブッコの壮大な歴史ドラマ。

演目選定にあたって

『ナブッコ』は1998年新国立劇場の第1シーズンに上演され、2001年ヴェルディ没100周年に再演されたディアツ演出のプロダクション以来12年ぶりの新制作となります。26曲ものオペラを作曲したイタリア・オペラの巨匠ヴェルディが、3作目にして大成功を収め彼の出世作ともなったこの作品を、生誕200周年にちなんで上演します。第2のイタリア国歌と呼ばれる合唱曲〈ゆけ、わが思いよ、金色の翼に乗って〉は数あるオペラの中でも最も有名で美しい合唱曲です。国内外のソリストたちによる情熱的な歌唱や演技はもちろんのこと、新国立劇場が誇る合唱団の歌声でお聴きいただければ、必ずや満足していただけるものと確信しています。オペラ指揮者として、待望の新国立劇場初登場となるカリニャーニは、ウィーン・フィルとの共演を聴いた尾高芸術監督がその圧倒的な素晴らしさに舌を巻いたほどの実力者です。日本におけるカリニャーニは、オーケストラへの客演で既に多くのファンを獲得しているため、オーケストラ・ファンに対してオペラ公演の扉を開く機会となればと考えています。新制作の演出は、イギリス人演出家ヴィックです。96年フィレンツェ歌劇場『ランメルモールのルチア』や2003年スカラ座『オテロ』など来日公演をはじめ、世界の一流歌劇場や音楽祭で意欲的な作品が話題となるヴィックがどのような舞台を作り上げるか、期待が高まります。

作品解説

『ナブッコ』は26曲ものオペラを作曲した27歳の若きヴェルディの出世作で、この時期のヴェルディを理解するにあたり欠かすことのできない作品です。前作『一日だけの王様』(1840年初演)が失敗に終わり失意のどん底にあった彼は、この時期、最初の妻と娘を亡くしており、父娘の関係が、最愛の娘を亡くす危機に瀕したナブッコの父としての感情に大きく同調していたと言われます。物語では、全く異なる性格を持つ二人の姉妹の対立、その父親であるバビロニアの王ナブッコの娘への愛情、闘争、裏切り、復讐といったドラマが繰り返されます。聖書と「バビロンの幽囚」の史実を題材にとったこの作品は、全曲に若々しい情熱がみなぎり、第1幕冒頭から合唱の力をいかに発揮させていて、その中のひとつ合唱曲〈ゆけ、わが思いよ、金色の翼に乗って〉は、単独でも演奏される有名な合唱曲のひとつです。当時(1842年初演)オーストリアの支配下にあったイタリアでは民族統一運動(リソルジメント)の嵐が吹き荒れていました。そうした中でイタリア人が統一の祈願を、今日でも第2のイタリア国歌と呼ばれる合唱曲〈ゆけ、わが思いよ、金色の翼に乗って〉に込めたのです。初演当時の新聞評が「壮大で特に合唱の効果がすばらしい」とこぞって賞賛したほど合唱が聴きどころとなっています。ヴェルディの葬儀の際30万人を越す市民が、埋葬の地に向かう霊柩車の後をこの合唱曲をトスカニーニの指揮で歌いながら静かに行進しました。

あらすじ

紀元前6世紀、バビロニア王ナブッコ（ネブカドネザルⅡ世）には、アビガイッレとフェネーナの二人の娘がいた。アビガイッレはナブッコが奴隷に産ませた子で、実の娘フェネーナは敵対するエルサレムの王国の人質になっている。エルサレムではバビロニアの侵攻を目前に、ヘブライ人が騒然となっていた。そこへ、大祭司ザッカーリアがフェネーナの手を引き出してくる。敵の王の娘が手中にある上は心配はいらないと民衆をなだめる。しかし、エルサレム王の甥イズマエーレはフェネーナを愛していた。やがて、アビガイッレが兵士を従えて神殿に突入してくる。イズマエーレに想いを寄せていたアビガイッレは自分を愛するのなら助けようと言うが、イズマエーレに拒否される。そこへナブッコが登場し、神を侮辱する。怒ったザッカーリアはフェネーナに短剣を突きつけるが、イズマエーレに剣を奪われる。ナブッコは神殿に火を放ち、ヘブライ人たちを捕虜としてバビロンに連行する。戦勝におごったナブッコは自らを王ではなく神だと宣言したため、天罰が下り精神錯乱の状態となる。一方、自分が奴隷の子であることを知ったアビガイッレは、イズマエーレとフェネーナが愛し合っていることに憎悪の念を燃やし、乱心したナブッコを欺いて、イズマエーレのために改宗したフェネーナとヘブライ人の処刑に署名させる。さらに自分の生まれをあばく古文書を引き裂いて証拠を隠滅。そして、王を監禁し自分が王の座に就こうと企てる。ユーフラテス川の岸辺で囚われのヘブライ人たちは祖国へ帰れる日を神に祈りながら歌う（合唱曲〈ゆけ、わが思いよ、金色の翼に乗って〉）。まさにフェネーナたちが処刑される寸前に正気に戻ったナブッコは、エホバの許しを祈りフェネーナを救出。偶像を破壊しヘブライ人の解放を命じる。

G. ヴェルディ
ナブッコ

Nabucco / Giuseppe Verdi
全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	バオロ・カリニャーニ
Conductor	Paolo Carignani
演出……………	グラハム・ヴィック
Production	Graham Vick
美術・衣裳……………	ポール・ブラウン
Scenery and Costume Design	Paul Brown
照明……………	ヴォルフガング・ゲッベル
Lighting Design	Wolfgang Göbbel
ナブッコ……………	ルチオ・ガッロ
Nabucco	Lucio Gallo
アビガイッレ……………	マリアンネ・コルネッティ
Abigaille	Marianne Cornetti
ザッカーリア……………	コンスタンティン・ゴルニー
Zaccaria	Konstantin Gorny
イズマエーレ……………	樋口達哉
Ismaele	Higuchi Tatsuya
フェネーナ……………	谷口睦美
Fenena	Taniguchi Mutsumi
アンナ……………	安藤赴美子
Anna	Ando Fumiko
アブダッロ……………	内山信吾
Abdallo	Uchiyama Shingo
ベルの祭司長……………	妻屋秀和
Gran Sacerdote di Belo	Tsumaya Hidekazu
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年5月19日(日) 2:00 29日(水) 2:00
 22日(水) 6:30 6月1日(土) 2:00
 25日(土) 2:00 4日(火) 6:30
 オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 26,250円・A : 21,000円・B : 14,700円・C : 8,400円・D : 5,250円

【前売開始】2013年1月19日(土)

ナブッコ

Nabucco / Giuseppe Verdi

指揮：パオロ・カリニャーニ

Conductor : Paolo Carignani

ミラノ生まれ。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲、オルガン、ピアノを学んだ後、A.ガリエラにオーケストラ指揮を師事。これまでにイタリアの主要歌劇場のほか、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、バルセロナのリセウ劇場、ネザーランド・オペラ、グライントボーン音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなど各地でオペラを指揮。またオーケストラも数多く振っている。1999年から2008年までフランクフルト・オペラの音楽総監督およびフランクフルト・ミュージアム・オーケストラの音楽監督。今後の予定としては、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリッヒ歌劇場、リセウ歌劇場、フィレンツェ五月音楽祭のほか、12年7月読売日本交響楽団などを振る予定。新国立劇場には、11年5月『コジ・ファン・トゥッテ』で急遽指揮降板となったため、待望の初登場となる。



演出：グラハム・ヴィック

Production : Graham Vick

イギリス・リヴァプール生まれ。バーミンガム・オペラ・カンパニーの創立者で芸術監督。R.ムーティ、J.レヴァイン、B.ハイティンク、V.ゲルギエフ、小澤征爾、Z.メータといった著名な指揮者と世界各地の一流歌劇場で仕事をしている気鋭のイギリス人演出家。音楽を大切にしながら現代的なセンスで、切れ味のよい人間ドラマを描き出す演出力が高く評価されている。1984年から87年までスコティッシュ・オペラ、94年から2000年までグライントボーン音楽祭で『エウゲニ・オネーギン』『マノン・レスコー』『コジ・ファン・トゥッテ』『ドン・ジョヴァンニ』など数々のオペラを演出。今後の予定には、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、マリンスキー劇場などがあり、ワーグナー誕生200周年の13年にはバレルモ・マッシモ歌劇場初の『ニーベルングの指環』のチクルス上演が予定されている。日本では、1995年サイトウ・キネンで『放蕩者のなりゆき』、96年にフィレンツェ歌劇場日本公演『ランメルモールのルチア』（メータ指揮）、2002年ミラノ・スカラ座日本公演『オテロ』『マクベス』（ムーティ指揮）の演出を手がけている。大英帝国勲章（CBE）を授与されている。新国立劇場初登場。

ナブッコ：ルチオ・ガッロ

Nabucco : Lucio Gallo

イタリア南部・ターラント生まれ。トリノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でE.バッターリアに師事。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ザルツブルク音楽祭、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールとレポレッコ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『フィガロの結婚』フィガロとアルマヴィーヴァ伯爵、『マクベス』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョ、『フィデリオ』ドン・ビツァロ、『パルジファル』クリングゾール、『ローエングリン』テルラムント、『ヴォツェック』タイトルロールなどレパートリーは幅広い。今後の予定としては、2012年3月シャンゼリゼ劇場で『パルジファル』、4月にウィーン国立歌劇場で『カヴァレリア・ルスティカーナ』『道化師』、5月ルクセンブルクと7月英国ロイヤルオペラで『オテロ』などがある。新国立劇場には『西部の娘』ジャック・ランズ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『椿姫』ジェルモンに続き5回目の登場。



ナブッコ

Nabucco / Giuseppe Verdi

アビガイル: マリアンネ・コルネッティ

Abigail : Marianne Cornetti

アメリカ・ペンシルバニア生まれ。メトロポリタン歌劇場、ピッツバーグ・オペラなどで経験を積んだ後、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナでミラノ・スカラ座、ヴェローナ野外劇場、ローマ歌劇場の舞台に立ち、良く伸びる豊かな声量と情感溢れる熱唱で一躍脚光を浴び、国際的キャリアのスタートを切る。以来、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、ブレゲンツ音楽祭、サヴォンリナ音楽祭などに出演。『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『アイダ』アムネリス、『仮面舞踏会』ウルリカ、『ドン・カルロ』エボリ、『マクベス』マクベス夫人、そして、幅広い声域で激しい感情の起伏を表現しなければならない、難役『ナブッコ』アビガイルなどヴェルディ作品では特に定評がある世界的にトップレベルのメゾ・ソプラノ。他にも『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『ジョコンダ』ラウラ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ローエングリン』オルトルートなど幅広いレパートリーを持つ。日本では、2001年ダニエル・オーレン指揮の『ドン・カルロ』エボリ、06年ボローニャ歌劇場日本公演『イル・トロヴァトーレ』アズチーナを歌っている。新国立劇場には2012/2013シーズンには『アイダ』アムネリスでも登場予定。新国立劇場初登場。



ザッカーリア: コンスタンティン・ゴルニー

Zaccaria : Konstantin Gorny

ロシア中部・タンボフ生まれ。イタリア、フランス、スラヴ系のレパートリーを得意とする。2004年に、「オペルンヴェルト」誌の“シンガー・オブ・ザ・イヤー”に選ばれた。最近ではフェニーチェ歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公、バーデン州立歌劇場カールスルーエの『リゴレット』スバラフチーレ、『魔笛』ザラストロ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『ナブッコ』ザッカーリアなどに出演。その他『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『シモン・ボッカネグラ』ヤコーボ・フィエスコ、『エルナーニ』大公ドン・シルヴァ、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公などをレパートリーとする。今後は、12年3月にフィレンツェで『アンナ・ボレーナ』ロシュフォル卿、12年4月にカールスルーエで『ドン・ジョヴァンニ』、13年10月パリで『ヴェスタの巫女』、12月フィレンツェで『アイダ』への出演が予定されている。新国立劇場初登場。

イズマエーレ: 樋口達哉

Ismaele : Higuchi Tatsuya

福島県出身。武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。エンリーコ・カルソー国際音楽コンクール最高位。1998年ハンガリー国立歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォでヨーロッパデビュー。99年ミラノ・スカラ座に於いてR・ムーティ指揮『運命の力』に出演。東京二期会公演『ダフネ』ロイキッポス、『仮面舞踏会』リッカルド、『エフゲニ・オネーギン』(P.コンヴィチエニー演出)レンスキー、『ファウストの劫罰』ファウスト、『ラ・トラヴィアータ』アルフレード、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』テバルドなどに出演を重ね常に素晴らしい存在感を示しドラマを牽引している。新国立劇場では『道化師』ベッペ、『ファルスタッフ』フェント、『椿姫』ガストン子爵、『黒船 一夜明け』領事、『修禅寺物語』春彦、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』カヴァラドッシ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウ、『蝶々夫人』ピンカートン、小劇場オペラ『外套』ルイーダ、『ザザ』ミーリオなど数多く出演。2012/2013シーズンでは『アイダ』伝令、平成24年度高校生のためのオペラ鑑賞教室『ラ・ボエーム』ロドルフォにも出演予定。二期会会員。



ナブッコ

Nabucco / Giuseppe Verdi

フェネーナ: 谷口睦美

Fenena : Taniguchi Mutsumi

高知県出身。東京藝術大学卒業。同大学院独唱科修了。二期会マスタークラス修了。二期会プロフェッショナルコース修了。第2回大阪国際コンクール声楽部門入選。第11回日本クラシック音楽コンクール東京地区本選大学の部奨励賞受賞。第19回出光音楽賞受賞。これまでに『カルメン』タイトルロール、『ノルマ』アダルジーザ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』マルチェリーナなどに出演。2006年東京二期会オペラデビューとなった『皇帝ティートの慈悲』（ペーター・コンヴィチュニー演出）セストで、彗星のごとく現れた逸材に数多く賞賛の声が寄せられた。07年産経新聞社主催「オペラの華」コンサート・シリーズ《カルメン・ハイライト》、08年東京二期会『ナクス島のアリアドネ』作曲家、09年三河市民オペラ『カルメン』タイトルロール、同年東京二期会『カプリッチョ』女優クレロンに出演。コンサートの分野でも活躍している。新国立劇場では、07年のはじめてのオペラ『カルメン』タイトルロールに出演。二期会会員。



ベルの祭司長: 妻屋秀和

Gran Sacerdote di Belo : Tsumaya Hidekazu

松江市出身。東京芸術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994年から2001年ラプツィヒ歌劇場、02年より11年までワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『エフゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ジークフリート』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』『アラベッラ』など多数出演している。2011/2012シーズンは『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長で出演。2012/2013シーズンは『セビリアの理髪師』『ドン・バジリオ』『アイーダ』ランフィスでも出演予定。藤原歌劇団団員。

コジ・ファン・トゥツテ

2013.6/3 ~ 15

レパートリー
Repertory

Così fan tutte

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕(イタリア語上演/字幕付)

初演: 1790年1月26日 ブルク劇場

作曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791)

台本: ロレンツォ・ダ・ポンテ Lorenzo da Ponte

女はみんな、こうしたもの? 現代劇として蘇ったキャンピング『コジ』再登場。

演目選定にあたって

2010年の『フィガロの結婚』、11年『コジ・ファン・トゥツテ』(新制作)、翌12年の『ドン・ジョヴァンニ』と続いた、モーツァルトのダ・ポンテ三部作の1つとして知られる『コジ・ファン・トゥツテ』を3シーズン目に再演します。世界中のオペラハウスで現在引く手あまたの若手演出家ミキエレットを招いて11年5月に上演したプロダクション。その斬新で的を得た演出が大好評を博し、早くも新国立劇場の舞台に再登場です。ドイツのオペラハウスを中心に物議を醸しているような大胆な読み替え演出は自らの方針には合わないという尾高芸術監督も、キャンプ場が舞台となったこの作品については、誰もが殆ど違和感なく観ることができる秀作だと高く評価しています。モダンで色彩豊かな舞台装置は、幕が上がった瞬間から観客の心をしっかりとらえて大きな話題となりました。指揮には11年『蝶々夫人』で素晴らしいタクトをとり、純真な愛の高揚感やほとぼしる激情を見事に描き出したアベルを迎えます。歌手陣には、ミュンヘン、ウィーンでも同役での出演予定があり、バッハ・コレギウム・ジャパンのソリストとしてお馴染みのパーシオンはじめ、08年グライントボーン音楽祭『ヘンゼルとグレーテル』(大野和士指揮)で躍動的なヘンゼルを演じたホロウェイ、09年プラシド・ドミンゴ・オペラリア声楽コンクールに優勝し11年10月にはMETデビューを果たしたクドリャなど上昇気流に乗った若手歌手たちを中心にキャスティングしています。また、カルボはオーストラリアで実施した試聴会の中から尾高芸術監督が選り出したアルゼンチン出身のバリトン歌手です。今後も国内外から素晴らしい歌手を新国立劇場に招聘し、“世界中の音楽家による総合舞台”を目指していきます。今回の指揮・歌手たちによる珠玉のアンサンブルにご期待ください。

作品解説

世界中のオペラハウスで上演され続けているモーツァルト不朽の名作。台本は、モーツァルトとの共同作業で名高いダ・ポンテの手によるもので、『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥツテ』はダ・ポンテ三部作といわれています。“コジ・ファン・トゥツテ”とは“女はみんな、こうしたもの”の意味で、1786年に初演され大成功を収めたモーツァルトの出世作『フィガロの結婚』の中でバジリオの台詞として出てきます。この公演を観た皇帝ヨーゼフⅡ世が、モーツァルトにこのセリフをテーマとした新作を依頼したのが作曲の経緯とされています。86年ウィーンでの初演はモーツァルト自身がチェンバロを弾きながら指揮をし、アンコールのために上演時間が倍になるほどの大成功を収めました。ただ、この作品は、台本の内容が恋人交換劇というのが荒唐無稽で非道徳的だと軽蔑され、20世紀になるまであまり高い評価を得られませんでした。ベートーヴェン、ワーグナー、ホフマンスタール等もこの作品を非難したといわれています。今日では、表向き

若い男女の恋愛喜劇の様相を呈しながら、モーツァルトの鋭い人間洞察による男女の感情の機微、人間の本質や愚かさが背後に潜み、均整のとれた美しい音楽の世界が広がるモーツァルトの不朽の名作としてその真価が認められています。二重唱をはじめ三重唱、四重唱、五重唱と、ほのかな感情の交錯を表現する均整のとれた優美なアンサンブルは、モーツァルト・オペラの極致といってもよい美しさ。心が洗われるような繊細な音楽が全編にわたって続きます。第1幕の別れの五重唱〈毎日手紙を書いてね〉や美しい三重唱〈風よおだやかになれ〉、第2幕のアリア〈女が15歳にもなれば〉や四重唱〈お嬢様お手をどうぞ〉、二重唱〈あの胸に抱かれて〉など、聴き所も満載です。

あらすじ

(オリジナル台本に基づき、本プロダクションの詳細に準拠していません)

18世紀末のナポリ。青年士官のグリエルモとフェルランドは、美しい姉妹フィオルディリージとドラベッラとそれぞれ婚約を交わしている。二人は老哲学者のドン・アルフォンソにそそのかされて女性の愛が永続的に信頼しうるかどうか、議論をする。アルフォンソは永続する愛など虚像にすぎないのだと二人を諭すが、若者たちは恋人の貞節について「信頼しうる」方に賭けることになった。まず、フェルランドとグリエルモは戦場に出征するふりをして偽りの別れを演じる。その後、二人はアルバニア人に変装して、姉妹を熱烈に口説く。最初は相手にしなかった姉妹だが、小間使いのデスピーナによるさばけた恋の指南も手伝ってか、あの手この手のプロポーズ攻撃に次第に心が揺らいでいく。まず、ドラベッラが姉の婚約者グリエルモに陥落し、ついにフィオルディリージも激しい葛藤の末フェルランドの手に落ちる。「女はみんなこうしたもの」とほくそえむドン・アルフォンソ。新しい二組のカップルの結婚式が行われているところに突如軍隊の帰還が告げられる。変装した男二人はもとの士官の姿に戻って姉妹の前に現れ、恋人の不貞を詰問。姉妹は許しを乞いドン・アルフォンソの種明かしで四人はもとの鞘に収まり、理性を讃えて幕となる。



2011年公演より

W.A. モーツァルト

コジ・ファン・トゥツテ

Cosi fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	イヴ・アベル
Conductor	Yves Abel
演出……………	ダミアーノ・ミキエレット
Production	Damiano Michieletto
美術・衣裳……………	パオロ・ファンティン
Scenery and Costume Design	Paolo Fantin
照明……………	アレッサンドロ・カルレッティ
Lighting Design	Alessandro Carletti
フィオルディリージ……………	ミア・パーション
Fiordiligi	Miah Persson
ドラベッラ……………	ジェニファー・ホロウェイ
Dorabella	Jennifer Holloway
デスピーーナ……………	天羽明恵
Despina	Amou Akie
フェルランド……………	アレクセイ・クドリャ
Ferrando	Alexey Kudrya
グリエルモ……………	ドミニク・ケーニング
Guglielmo	Dominik Köninger
ドン・アルフォンソ……………	ホセ・カルボ
Don Alfonso	José Carbó
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年6月3日(月) 6:30 12日(水) 2:00
 6日(木) 6:30 15日(土) 2:00
 9日(日) 2:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

S : 23,100円・A : 18,900円・B : 12,600円・C : 7,350円・D : 4,200円

【前売開始】2013年1月20日(日)

コジ・ファン・トゥツテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

指揮：イヴ・アベル

Conductor : Yves Abel

トロント生まれ。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、バルセロナのリセウ劇場、メトロポリタン歌劇場、グラインドボーン音楽祭、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなど世界各地に客演指揮者として登場。ベルリン・ドイツ・オペラの首席客演指揮者として、ダルベール『低地』『カルメン』『シモン・ボッカネグラ』『ドン・パスクワレ』などの新プロダクションを含む数多くの上演を指揮している。その他、『フィガロの結婚』『コジ・ファン・トゥツテ』『ドン・ジョヴァンニ』『セビリアの理髪師』『チェネントラ』『愛の妙薬』『連隊の娘』『ドン・カルロ』『椿姫』『蝶々夫人』『ウェルテル』『カルメル派修道女との対話』『ペレアスとメリザンド』『こもり』など定評のあるフランスものを中心に幅広いレパートリーを誇る。2012/2013シーズンにメトロポリタン歌劇場『セビリアの理髪師』、14年に英国ロイヤルオペラで『連隊の娘』を振る予定。新国立劇場には11年『蝶々夫人』で初登場、蝶々さんの感情の起伏や音楽によって鮮やかに描かれた情景を卓抜した表現力で美しくしなやかに紡ぎ出し大喝采を浴びた。



演出：ダミアーノ・ミキエレット

Production : Damiano Michieletto

ヴェネツィア生まれ。ミラノのパオロ・グラッシ演劇学校で演出を学び、ヴェネツィアのカ・フォスカリ大学で現代文学を学ぶ。2003年ウェックスフォード・フェスティバル『バグパイブ吹きシュワンダ』の演出で、絶賛を浴びる。その他、初期の演出に、ミラノでストラヴィンスキーの『兵士の物語』の他、『真夏の夜の夢』『動物の謝肉祭』『ノアの洪水』などがある。07年ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『泥棒かささぎ』で、かささぎを少女に置き換え少女の夢物語とした大胆な演出は大評判となり、08年イタリアで権威あるフランコ・アッピアーティ賞を受賞。一躍世界の注目を集める人気演出家となる。これまでにフィレンツェ五月音楽祭、ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場、チューリッヒ歌劇場、ナポリのサン・カルロ劇場、ボローニャ歌劇場などで、『セビリアの理髪師』『ドン・ジョヴァンニ』『海賊』『絹のはしご』『ファルスタッフ』『アルジェのイタリア女』『ランメルモールのルチア』『後宮からの誘拐』『ジジスモン』などを演出している。12年はザルツブルク音楽祭で『ラ・ボエーム』を手がける予定。新国立劇場には『コジ・ファン・トゥツテ』で初登場となった。

フィオルディリージ：ミア・パーション

Fiordiligi : Miah Persson

スウェーデン生まれ。2003年にザルツブルク音楽祭でウィーン・フィルと共演。04年に『ばらの騎士』ゾフィーでオペラ・デビュー。2005/2006シーズンには、英国ロイヤルオペラ、グラインドボーン音楽祭にデビュー。以来、ザルツブルク音楽祭を始め、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）、パリ・オペラ座、シャンゼリゼ劇場、ストックホルム王立歌劇場、フランクフルト・オペラ、エクサンプロヴァンス音楽祭など世界各地で活躍。『コジ・ファン・トゥツテ』フィオルディリージ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『フィガロの結婚』スザンナ、『魔笛』パミーナ、『ボントの王ミトリダーテ』シファレ、『愛の妙薬』アディーナ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『放蕩者のなりゆき』アン、『ねじの回転』家庭教師など幅広いレパートリーを持つ。コンサートでも活躍しており、著名指揮者と共演している。また、ソロやオペラの録音も数多くリリースされており、日本のバッハ・コレギウム・ジャパンと共演したバッハ『マニフィカト』などがある。新国立劇場初登場。



コジ・ファン・トゥッテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

ドラベッラ: ジェニファー・ホロウェイ

Dorabella : Jennifer Holloway

アメリカ生まれ。マンハッタン音楽院ならびにジョージア大学で学ぶ。在学中にジョージア州で、『愛の妙薬』に出演し、オペラデビュー。2006/2007のシーズンにイタリアのバルマ劇場とパリ・シャトレ座に出演してヨーロッパデビュー。以来、メトロポリタン歌劇場、マドリードのレアル劇場、フランスのボルドー国立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、ダラス・オペラ、サンタフェ・オペラ、グラインドボーン音楽祭、フィレンツェ五月音楽祭など欧米の歌劇場や音楽祭で活躍。『イドメネオ』イダマンテ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『椿姫』フローラ、『ファルスタッフ』メグ夫人、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『サロメ』小姓、『カルメン』メルセデスなどのレパートリーを持つ。若々しさと細やかさを兼ね備えた美声と、力強い歌唱力で高く評価されている。新国立劇場初登場。



デスピーナ: 天羽明恵

Despina : Amou Akie

東京都出身。東京藝術大学卒業。オペラ研修所、二期会オペラスタジオ修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてシュトゥットガルト音楽大学に留学。1995年第6回五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、ベルリンで2年間研修を行う。同年7月、若手オペラ歌手の登竜門として知られるラインスベルク音楽祭で『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ(ティーレマン指揮)、8月にソニア・ノルウェー女王記念第3回国際音楽コンクール優勝。その後、ドイツを拠点として、ジュネーヴ歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・コミッシェ・オーバーなどヨーロッパ各地の歌劇場や音楽祭に出演。国内ではサントリーホール・ホールオペラなどへ定期的に登場、日本の主要なオーケストラの定期公演にもソリストとして出演している。超絶的なコロラトゥーラとリリックな声を併せ持ち、内外で高い評価を得ているソプラノ歌手。サントリーホール・オペラアカデミーのコア・メンバーとして、若手の指導にも力を入れている。新国立劇場には『リゴレット』ジルダ、『仮面舞踏会』オスカル、『アラベッタ』フィアツカミツリ、『天守物語』亀姫、『黒船 一夜明け』お松、『修禅寺物語』かえでなどで出演。

フェルランド: アレクセイ・クドリャ

Ferrando : Alexey Kudrya

モスクワ生まれ。音楽家の両親のもとに育つ。グネーシン音楽学校でフルート、声楽、指揮を学ぶ。2009年ブラッド・ドミンゴ・オペラリア声楽コンクールに優勝しモスクワのスタニスラフスキー・ネミローヴィチ・ダンチェンコ劇場(モスクワ音楽劇場)で『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『椿姫』アルフレード、『愛の妙薬』ネモリーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドなどを歌う。これまでにバイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ジュネーヴ歌劇場、フランダース・オペラ、ペーザロ、パレルモなどに出演。11年10月に『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵でメトロポリタン歌劇場にデビュー。ロジーナへの愛のセレナーデなど伸びのある美声と音楽的感受性溢れる歌唱が高く評価された。今後の予定としては、バイエルン州立歌劇場『チェネレントラ』、ウィーン国立歌劇場『セビリアの理髪師』、モネ劇場『リゴレット』、エクサンプロヴァンス音楽祭『魔笛』などがある。新国立劇場初登場。



コジ・ファン・トゥツテ

Così fan tutte / Wolfgang Amadeus Mozart

グリエルモ: ドミニク・ケーニンガー

Guglielmo : Dominik Köninger

ドイツ南部・ハイデルベルク生まれ。カールスルーエ音楽大学でR.ヘルマンに師事。バーデン州立歌劇場カールスルーエ『カルメン』モラレスでオペラ・デビュー。その後も同劇場で『チェネレントラ』ダンディーニ、『コジ・ファン・トゥツテ』グリエルモなどを歌う。バーデン・バーデン祝祭劇場では『ローエン格林』に出演。これまでにハンブルク州立歌劇場、インスブルック州立劇場、アン・デア・ウィーン劇場、フランクフルト・オペラ、シュトゥットガルト歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに出演。『コジ・ファン・トゥツテ』グリエルモ、『魔笛』パパゲーノ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『こうもり』ファルケ、『魔弾の射手』オットカール侯爵などをレパートリーとする。2012/2013シーズンには、ベルリン・コーミッシェ・オーパーで『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、グルック『タウリスのイフィゲニア』オレストの出演を予定している。新国立劇場初登場。



ドン・アルフォンソ: ホセ・カルボ

Don Alfonso : José Carbó

アルゼンチン生まれ。2005年オーストラリア声楽コンクール優勝。02年にオーストラリア・オペラ『ナクソス島のアリアドネ』でオペラデビュー。05年にローマ歌劇場『フィガロの結婚』タイトルロールを歌ってヨーロッパ・デビューを果たす。その後もマドリッドのレアル劇場、ミラノ・スカラ座、シドニーのオーストラリア・オペラ、プリズベンのクイーンズランド・オペラ、シアトル・オペラなどに出演。『フィガロの結婚』フィガロとアルマヴィーヴァ伯爵、『コジ・ファン・トゥツテ』ドン・アルフォンソ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『チェネレントラ』ダンディーニ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『ランメルモールのルチア』エンリーコ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『西部の娘』ソノーラ、『マノン』レスコー、『道化師』シルヴィオなどのレパートリーを持つ。ソリストとしてシドニー交響楽団やメルボルン交響楽団などの共演も多い。12年にはオーストラリア・オペラで『セビリアの理髪師』フィガロと『死の都』フリッツ、クイーンズランド・オペラで『カルメン』エスカミーリョなどに出演予定。新国立劇場初登場。

2013.6/25 ~ 30

夜叉ヶ池

新制作 / 創作委嘱作品・世界初演

*New production
Commissioned Work,
World Premiere*

Yashagaike (Demon Pond)

中劇場 | 5回公演 | 全2幕 (日本語上演 / 字幕付)

初演：2013年6月25日予定 新国立劇場

作曲：香月修 Katsuki Osamu (1948-)

原作：泉鏡花 Izumi Kyoka

上演台本：香月修 / 岩田達宗 Katsuki Osamu / Iwata Tatsuji

現実と非現実が交錯する夢幻の世界。日本の美しい旋律で描く永遠の愛の物語。

演目選定にあたって

新国立劇場は邦人作曲家によるオペラ作品の上演を劇場の重要な使命の一つとして考えています。尾高芸術監督第1シーズンでは、日本オペラ史上最高傑作といわれる團伊玖磨の『夕鶴』、2年目では遠藤周作の不朽の名作をもとに、台本・作曲の松村禎三が13年という歳月をかけて完成させた珠玉のオペラ『沈黙』を選びました。第3シーズンは、2010年『鹿鳴館』に続く待望の創作委嘱作品の登場です。作曲は、日本の美しい旋律を書くことができる作曲家として尾高芸術監督が全面的な信頼を置く、香月修に委嘱しました。歌曲を中心に完成度の高い美しい作品を数多く作曲してきた実績とその手腕に定評があり、大いに期待されます。また、演出に臨むのは、岩田達宗です。作曲家と共に原作となった泉鏡花による戯曲からオペラの上演台本を書き上げました。彼は東京文化会館50周年記念フェスティバル記念オペラ『古事記』演出でも大成功を収めています。新国立劇場では、2000年小劇場オペラの第1回『オルフェオとエウリディーチェ』公演を演出。現在では人気演出家として全国各地のオペラ公演を成功に導いています。この公演にいらしたお客様が、聴いたばかりのメロディーを口ずさめるような音楽で、新国立劇場から日本各地へ、そして海外に向けて発信できるような作品となることを目指しています。新国立劇場6作目となる新制作 / 創作委嘱作品・世界初演の『夜叉ヶ池』にどうぞご期待ください。

～尾高忠明芸術監督より～

日本のオペラが世界で認められるには、世界に通用する日本のオペラがなくてはならないと確信しています。世界に通用する日本のオペラとは、日本人がその作品を持って、海外で上演するのではなく、海外のオペラハウスが彼らなりに上演できる作品だと思えます。そういう作品を自分の任期中に作って上演し、皆さんに愛され、さらにこの作品が世界に羽ばたき、海外のオペラハウスでもレパートリーになればと願ってやみません。香月さんの音楽には、この願いを可能とする美しさに満ち溢れています。香月さんは私の高校時代からの同級生です。桐朋祭で私自身が“与ひょう”、井上道義が“惣ど”を演じたお芝居(オペラではない)『夕鶴』公演の音楽を担当してくれた彼のメロディーは、涙が出るほど美しかった。その後も、日本の素晴らしさを大事に音楽に込めて、心からにじみ出るような美しい作品を書いていらっしゃる。『夜叉ヶ池』は彼自身が長い間、温めてきた題材と聞いています。新国立劇場の中劇場で日本オペラの魅力に浸って頂きたいと思います。

～作曲家 香月 修より～

オペラ『夜叉ヶ池』への想い

泉鏡花の戯曲『夜叉ヶ池』と出会ってから、すでに30年以上の月日が流れました。20代の半ばにオペラを作曲、上演して以来、第2作を創ることは私が長年持ち続けて来た夢でしたが、早い時期からこの題材に注目していたこととなります。鏡花の作品の中で、例えば『天守物語』等と比較すると必ずしも高い評価を受けていない感のある『夜叉ヶ池』ですが、私はオペラの題材としてはとても魅力のある作品だと思っていましたし、実際に作曲してみて更にそれを確信するようになりました。それは先ず、現実と非現実が交錯する構成となっているので、我々は自然にその二つの世界を行き来し、幻想的な雰囲気を楽しむことができます。次に“百合”、“白雪”という性格の異なる二人の女性を中心に物語が展開し、“晃”、“学円”という二人の男性がそれを支えているという主役の人物設定、また、“鉾蔵”を中心とする“晃”を排除しようとする俗物的存在としての村人達との戦い、そして“鯉”、“蟹”、“鯰”の非現実世界でのコミカルな会話や所作等、多様な登場人物で彩られていることです。物語は最後に“百合”と“晃”の死の場面でクライマックスを迎えますが、その二人は“精霊”となり、永遠の愛を誓ってこの物語は終わります。このような多彩な登場人物が織りなす舞台では“愛”、“友情”、“不安”、“怒り”、“怨念”、“争い”、“滑稽さ”、“愚かさ”等々、実に様々な感情、そして人間模様が描かれています。

オペラのための台本は、先ず私が原案を作成し、演出の岩田達宗さんに直していただくという手順で出来上がりました。これまで多くの舞台を手掛けて来られた岩田さんからは多くの素晴らしい貴重なアイディアを頂くことができました。ですからこの作品は“鏡花の題材をベースにしたオペラのための新たな創作”である、と理解していただいた方がよいかもしれません。

さて、このオペラの委嘱のお話があった時、尾高忠明さんと私の間での共通のコンセプトは“誰でもくちざさむことが出来るうたのあるオペラを創りたい”ということでした。ですからこの作品には私のこれまでの歌曲の世界での経験をもとに、親しみ易く情感溢れるうたを書こうという想いが込められています。

2011年11月

～演出 岩田達宗より～

『夜叉ヶ池』は自然の逆襲による人間社会の滅亡の物語である。

自然を疎かにする、愚かで傲慢な人間が自らの世界を滅亡に至らしめる物語だ。

では、単に愚かな人間に対する否定の物語であろうか。厭世的な人間否定の物語であろうか？

否。これは逆説的な人間賛歌なのだ。

『夜叉ヶ池』で描かれているのは激しい対立と闘争の物語である。世界を破滅に導くほどの激しい対立と闘争の物語。美と醜、男と女、個人と社会の対立。理不尽にたいする正義の闘争。そして恋を成就するための凄まじい闘争。このような、ありとあらゆる対立と闘争がこの物語の全編を貫いている。

これらの対立と闘争を生むものは何か。

それは人間の欲望だ。そして、欲望を支える生命のエネルギー。激しく生きようとする人間のエネルギーだ。それを愚かと呼ぶなかれ、自らの世界を破滅に導くほどの激しい生命のエネルギー。生きる欲望。

この矛盾。この皮肉と逆説。

これこそが人間が人間たる所以ではないか。これ程の激しい生命のエネルギーと、欲望の力を描き切った物語は他に類をみない。つまり人間が人間である所以を謳いあげた物語は他にあるまい。

『夜叉ヶ池』は、人間の滅亡を通して、人間の持つ大いなる生命のエネルギーの凄まじさを謳いあげた賛歌である。愚かな人間の滅亡を通して描いた、逆説的な人間賛歌なのだ。

2011年12月

あらすじ

越前・三国ヶ岳山中の谷。夜叉ヶ池には、その昔、周囲の集落を襲う大水から人々を守るために、徳の高い僧が行力によって龍神を池に封じ込めたという伝説があった。これに興味を持って東京からやってきた萩原晃は、この谷にある寺の鐘楼番の後を継ぎ、龍神との約束通り日に三度(明六つ、暮六つ、丑三つ)鐘を撞き続けた。ある夏の日、家を出たきり音沙汰のない晃を心配した親友の学円が谷を訪れ、晃との再会を果たす。晃は村の娘・百合を妻としていた。晃は、学円を夜叉ヶ池に案内するため百合を家に残して山に入る。村では未曾有の陽照りが続いていたため、雨乞いの生贄として村で一番美しい百合を夜叉ヶ池に捧げるようになった。かつて、同じように生贄となり裸で牛に乗せられた白雪という娘がいた。白雪は辱めを受けた恨みで村を焼き、自らは夜叉ヶ池に身を沈めた。池の当主となった白雪姫は、白山剣ヶ峰千蛇ヶ池の公達に想いを寄せている。公達からの恋文が白雪姫に届く。一刻も早く会いに行こうとする姫に、夜叉ヶ池から出ると村が大水によって水没してしまい、人間との“鐘の約束”を破ることになると姥が引き留める。姫は人の命よりも我が恋が大事と反論するが、人里離れた山の中で鐘の約束を守り、晃の帰りを待つ百合の歌声に心打たれ、会いに行くかわりに返事を書くことにする。夜叉ヶ池に向かった晃と学円は、胸騒ぎがして家に戻ると、村人たちが百合を捕えようとしていたところだった。白雪の身に起こった過ちを繰り返してはならないという晃の懸命な説得にも関わらず、村人たちは晃と学円に襲いかかる。百合は晃の無事を願って自害する。絶望した晃は、鐘の約束を破り、丑三つの鐘を撞かずに百合の後を追って自分の咽喉を切る。夜叉ヶ池から白雪姫の喜ぶ声。空には黒雲が広がり、雷鳴が轟いて、大水が村を襲う。水の中で晃と百合がほほ笑む。

香月 修

夜叉ヶ池

Yashagaike (Demon Pond) / Katsuki Osamu

全2幕〈日本語上演／字幕付〉

原 作……………	泉 鏡花
Original Libretto by	Izumi Kyoka
上演台本……………	香月 修 / 岩田達宗
Libretto Adaptation	Katsuki Osamu / Iwata Tatsuji
作 曲……………	香月 修
Music by	Katsuki Osamu
指 揮……………	十束尚宏
Conductor	Totsuka Naohiro
演 出……………	岩田達宗
Production	Iwata Tatsuji
美 術……………	二村周作
Scenery Design	Futamura Shusaku
衣 裳……………	半田悦子
Costume Design	Handa Etsuko
照 明……………	沢田祐二
Lighting Design	Sawada Yuji
キャスト……………	未定
Cast	TBA
合 唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2013年6月25日(火) 6:30 29日(土) 2:00
 26日(水) 6:30 30日(日) 2:00
 28日(金) 2:00

中劇場

【チケット料金(税込)】

S : 15,750円・A : 12,600円・B : 8,400円・C : 6,300円・D : 3,150円

【前売開始】2013年2月17日(日)

夜叉ヶ池

Yashagaike (Demon Pond) / Katsuki Osamu

作曲：香月 修

Music : Katsuki Osamu

1948年佐賀県生まれ。桐朋学園大学音楽学部作曲科卒業。入野義朗、別宮貞雄 両氏に師事。作品は『クラリネット五重奏曲』（卒業作品）、オペラ『わらしべ長者』（日本オペラ協会委嘱作品）、フルート、ハーブ、チェロのための『トリオ』、『弦楽四重奏曲』『詩曲Ⅰ—独奏ヴァイオリンのための』（詩曲Ⅰはこれまで木野雅之、藤原浜雄、加藤知子、田中晶子各氏により演奏された。後に弦楽四重奏版、弦楽合奏版作成）、『詩曲Ⅱ—2つのヴァイオリンとピアノのための』（ミュージック・イン・スタイル／岩崎淑委嘱作品、音楽之友社より2012年出版予定）、『詩曲Ⅲ—ピアノ四重奏のための』（アンサンブル・アコルデ委嘱作品）、『プレリュード、アリア、フィナーレ—ピアノ四重奏のための』（ガブリエルカルテット／フランス 委嘱作品、07年パリ・東京で初演）、『子供の四季—児童合唱とオーケストラのための』（桐朋学園大学 子どものための音楽教室／富山教室 委嘱作品）、『三木露風の詩による三つの歌』（二期会、日本歌曲研究会委嘱作品 12年全音楽譜出版社より出版予定）などがある。三好達治、佐藤春夫、三木露風の詩による多数の歌曲は、これまで木村俊光、鮫島有美子をはじめとする多くの歌手たちのリサイタルなどで演奏されている。その他、合唱曲、童謡、子供のためのピアノ曲など多数。現在、桐朋学園大学音楽学部作曲科教授。日本作曲家協議会理事。日本現代音楽協会会員。11年日本音楽コンクール作曲部門審査員。新国立劇場初登場。



指揮：十束尚宏

Conductor : Totsuka Naohiro

東京都出身。桐朋学園大学指揮科及び研究科修了。故森正、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。在学中の1982年第17回民音指揮者コンクール第一位入賞。翌年夏、タンゲルウッド音楽祭にフェローシップ・コンダクターとして招かれ、クーセヴィツキー賞指揮大賞を受賞。84年、ボストン交響楽団に副指揮者として招かれ研鑽を積み、新日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会で日本デビュー。同年ベルリンに留学、その間も再びタンゲルウッド音楽祭に招かれバーンスタイン、プレヴィン、スラットキンなどの各氏に師事。89年NHK交響楽団定期演奏会を指揮。海外では、ストックホルム・フィル、ゾーリンゲン、ニュルンベルクの各歌劇場管弦楽団、リスボン・グルベンキアン管弦楽団などに客演し好評を博す。97年、フランス・ノルマンディーの10月音楽祭に広島交響楽団と共に招かれる。近年ではフランス国立モンペリエ管弦楽団、フランス国立リール管弦楽団、ドイツ・ヘッセン州立劇場管弦楽団、ベルリン・コーミッシェ・オパー、ブリュッセル・モネ劇場管弦楽団などに客演。88年に群馬交響楽団の指揮者に就任、翌年より92年まで正指揮者を務める。92年から97年まで東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者、94年から98年まで広島交響楽団音楽監督を務める。2002年よりウィーン国立歌劇場にて研鑽を積む。その精緻な指揮と濃密な音楽作りで、今後の国内外での活躍が益々期待されている。新国立劇場初登場。

夜叉ヶ池

Yashagaike (Demon Pond) / Katsuki Osamu

演出：岩田達宗

Production : Iwata Tatsuji

神戸市出身。東京外国語大学フランス語学科卒業。大学卒業後、劇団「第三舞台」を経て、舞台監督集団ザ・スタッフでオペラの舞台製作に携わる。1991年より栗山昌良に演出助手として師事。98年より2年間渡欧、ドイツ、イギリスを中心に研鑽を積む。帰国後、本格的にオペラ演出家として活動開始。日生劇場、新国立劇場、びわ湖ホール、藤原歌劇団、日本オペラ協会、コレギウム・ムジクム、藤沢市民オペラ、愛知県文化振興事業団、神戸市演奏協会、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス、関西二期会、関西歌劇団、広島オペラルネッサンスなど各地のオペラ・プロダクションで作品を発表し、高い評価を得る。2007年より、いずみホール・オペラのプロデューサーを兼任。堺シティオペラ『三部作』、いずみホール『カルメル会修道女の対話』は、音楽クリティック・クラブ賞、大阪府舞台芸術賞を受賞。同じく堺シティオペラ『三部作』と愛知万博開催記念オペラ新実徳英作曲『白鳥』で佐川吉男賞を受賞。06年オペラ演出家として音楽クリティック・クラブ賞を初受賞。佐藤美枝子とのモノオペラ『幻想のルチア』、尾崎比佐子プロデュースによる『ロメオとジュリエッタ』、三木稔作曲『幸せのパゴダ』などの少人数による実験的な小劇場オペラでは台本を担当。最近の主な演出作品は、藤原歌劇団『ラ・ボエーム』『ラ・ジョコンダ』、愛知県芸術劇場『ファルスタッフ』、東京文化会館50周年記念フェスティバル記念オペラ『古事記』など。全国各地のオペラ公演を成功に導き多忙を極め、“行列のできる演出家”の異名を持つ人気演出家。新国立劇場では2000年小劇場オペラの第1回『オルフェオとエウリディーチェ』『シャーロック・ホームズの事件簿〈告白〉』を演出、また『夕鶴』『エウゲニ・オネーギン』の演出助手や、新国立劇場オペラ研修所の研修公演『中国人の偶像〜リードロ・チネーゼ〜』で演技指導を務めている。



平成24年度公演

〈3演目9公演〉

2012.7

平成24年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室

ラ・ボエーム

La Bohème | G. プッチーニ

6回公演 オペラパレス

2012.10

平成24年度

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

愛の妙薬

L'elisir d'amore | G. ドニゼッティ

2回公演 尼崎市総合文化センター アルカイクホール

2012.4

尾高忠明芸術監督による特別企画 II

ドン・ジョヴァンニ (演奏会形式)

Don Giovanni [-CONCERT by Cover Singers~] | W.A. モーツァルト

1回公演 中劇場

ラ・ボエーム

La Bohème

オペラパレス | 6回公演 | 全4幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及をめざす新国立劇場が、次の世代を担う青少年に優れた本物の芸術を鑑賞する機会として平成10年度より毎年開催しています。高校生に、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくという新国立劇場独自のコンセプトが大変ご好評をいただいております。毎年、来場者の8割以上がオペラ鑑賞初体験、7割が作品のタイトルすら知らないというアンケート結果でしたが、幕が開くとざわついた劇場内はたちまち静まりかえり、ドラマティックなストーリー展開と情熱的な音楽にあふれるオペラの名作を体感していました。平成20年度からは新たに関西公演がスタート、3年連続で不朽の名作『蝶々夫人』、平成23年度には『愛の妙薬』を上演しました。1年間で東京公演、関西公演あわせて1万3千人を超す高校生が“本物の総合芸術”である新国立劇場のオペラ鑑賞教室でオペラデビューを果たしています。

学校へのアンケートなどを元に、本企画に最適と思われる演目を検討した結果、これまでに上演した作品には、『蝶々夫人』『トスカ』『カルメン』『カヴァレリア・ルスティカーナ』『椿姫』と、錚々たるオペラの名作が並んでいます。平成23年度(2011年)は、東京で4年ぶりの『蝶々夫人』を上演。関西では2010年4月にオペラ劇場で初演し好評を博した『愛の妙薬』が早速登場、オーケストラピットには大阪フィルハーモニー交響楽団が入り、話題となりました。平成24年度の関西公演も大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏となります。

初 演：1896年2月1日 トリノ王立歌劇場

作 曲：ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台 本：ジュゼッペ・ジャコーザ／ルイージ・イルリカ Giuseppe Giacosa / Luigi Illica

作品解説

オペラハウスになくてはならないスタンダードな名作として、プッチーニによる甘く切ない永遠の青春オペラ『ラ・ボエーム』を初めて鑑賞教室で取り上げます。詩人ロドルフォお針子ミミとの純愛物語に加え、画家マルチェロとその恋人ムゼッタとを対照的に描きながら、当時のパリの若者たちの生活ぶりを全4幕、起承転結の流れでまとめ上げた世界的人気作品。どの人物も写実的な手法で生き生きと描かれ、『トスカ』や『蝶々夫人』と並びプッチーニの三大名作オペラともいわれています。2003年の新国立劇場初演では、演出の栗園淳がパリの街を俯瞰するように紗幕や舞台装置を効果的に使用し、薄幸のヒロイン、ミミの涙を誘う最期のシーン等の演出が高く評価されたプロダクションです。

作品解説

『マノン・レスコー』（1893年初演）の成功で一躍一流オペラ作曲家の仲間入りを果たしたプッチーニが、その後数々の傑作を生み出した台本作家イッリカと詩人ジャコーザとの名コンビで描きあげた、愛と友情の青春オペラです。原作となっているのは、19世紀半ばにフランスで活躍したアンリ・ミュルジェの小説『ボヘミアンたちの生活風景』。原作小説の複雑さゆえに、このオペラの台本化は困難を極めました。骨格として、詩人ロドルフォとお針子ミミとの純愛物語に加え、画家マルチェッロとその恋人ムゼッタとを対照的に描きながら、当時のパリの若者たちの生活ぶりを全4幕起承転結の流れでまとめ上げました。初演は1896年トリノ王立劇場で、当時28歳のトスカニーニの指揮によるものでした。感動的な物語の効果ばかりではなく、和音の響きや、モチーフの重なりなど新しい試みも随所に見られることから、この作品の水準の高さはすぐに認められ、たちまち世界中で愛される作品となりました。

あらすじ

1830年頃、パリのラテン区。クリスマス・イブ、画家マルチェッロと詩人ロドルフォは屋根裏部屋に集まり、そこに哲学者コッリーネが加わる。音楽家ショナールも食料を持ってやってくる。友人たちが出かける中、ロドルフォはひとり仕事のため残ると、そこにろうそくに火を求めたため現れたミミと出会う。二人はたちまち恋に落ちる。仲間がカフェ「モミュス」に集まる中、ミミがロドルフォから贈られた帽子をかぶった出で立ちで現れ、仲間に紹介される。そこにムゼッタが初老のパトロン、アルチンドロと現れるが、昔の恋人であるマルチェッロと再開し、よりを戻して彼とともに去る。何週間か後、ロドルフォといさかいをしたミミはマルチェッロに助言を求めるが、ロドルフォがもう彼女とは一緒に生きていけないと語るのを聞く。彼もまた彼女が結核であることを知り、死を予感していた。二人は春になったら別れることで同意。屋根裏部屋に戻って、ロドルフォとマルチェッロは自分たちが捨てた女性を思う。コッリーネとショナールが入ってくるとそこにムゼッタがやってきて、ミミがパトロンを失い重体だと告げる。ミミは自分の残された時間をロドルフォと過ごしたいと願っていた。瀕死のミミが連れてこられロドルフォと抱き合うが、すぐに息絶える。彼女の亡骸に取りすがるロドルフォが残される。

G. プッチーニ

ラ・ボエーム

La Bohème / Giacomo Puccini

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………石坂 宏
Conductor Ishizaka Hiroshi

演出……………栗國 淳
Production Aguni Jun

美術……………バスクアーレ・グロッシ
Scenery Design Pasquale Grossi

衣裳……………アレッサンドロ・チャンマルーギ
Costume Design Alessandro Ciammarughi

照明……………笠原俊幸
Lighting Design Kasahara Toshiyuki

〈12, 14, 18日〉 〈13, 17, 19日〉

ミミ……………木下美穂子 廣田美穂
Mimi Kinoshita Mihoko Hirota Miho

ロドルフォ……………村上敏明 樋口達哉
Rodolfo Murakami Toshiaki Higuchi Tatsuya

マルチェッロ……………成田博之 青山 貴
Marcello Narita Hiroyuki Aoyama Takashi

ムゼッタ……………安藤赴美子 馬原裕子
Musetta Ando Fumiko Mahara Hiroko

ショナール……………萩原 潤 森口賢二
Schaunard Hagiwara Jun Moriguchi Kenji

コッリーネ……………久保田真澄 伊藤 純
Colline Kubota Masumi Ito Jun

ベノア……………鹿野由之 大澤 建
Benoit Shikano Yoshiyuki Osawa Ken

アルチンドロ……………晴 雅彦 大久保光哉
Alcindoro Hare Masahiko Okubo Mitsuya

バルピニョール……………村上公太 糸賀修平
Parpignol Murakami Kota Itoga Shuhei

合唱……………新国立劇場合唱団
Chorus New National Theatre Chorus

児童合唱……………TOKYO FM 少年合唱団
Children Chorus TOKYO FM BOYS CHOIR

管弦楽……………東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra Tokyo Philharmonic Orchestra

2012年7月12日(木) 1:00 17日(火) 1:00
13日(金) 1:00 18日(水) 1:00
14日(土) 1:00 19日(木) 1:00

オペラパレス

【チケット料金(税込)】

全席指定: 2,100円(高校生のみ)

当日料金: 2,100円(高校生以下) / 4,200円(一般・大人)

愛の妙薬

L'elisir d'amore

尾崎市総合文化センター アルカイクホール | 2回公演 | 全2幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及をめざす新国立劇場が、次の世代を担う青少年に優れた本物の芸術を鑑賞する機会として平成10年度より毎年開催しています。高校生に、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくという新国立劇場独自のコンセプトが大変ご好評をいただいております。毎年、来場者の8割以上がオペラ鑑賞初体験、7割が作品のタイトルすら知らないというアンケート結果でしたが、幕が開くとざわついた劇場内はたちまち静まりかえり、ドラマティックなストーリー展開と情熱的な音楽にあふれるオペラの名作を体感していました。平成20年度からは新たに関西公演がスタート、3年連続で不朽の名作『蝶々夫人』、平成23年度には『愛の妙薬』を上演しました。1年間で東京公演、関西公演あわせて1万3千人を越す高校生が“本物の総合芸術”である新国立劇場のオペラ鑑賞教室でオペラデビューを果たしています。

学校へのアンケートなどを元に、本企画に最適と思われる演目を検討した結果、これまでに上演した作品には、『蝶々夫人』『トスカ』『カルメン』『カヴァレリア・ルスティカーナ』『椿姫』と、錚々たるオペラの名作が並んでいます。平成23年度(2011年)は、東京で4年ぶりの『蝶々夫人』を上演。関西では10年4月にオペラ劇場で初演し好評を博した『愛の妙薬』が早くも登場、オーケストラピットには大阪フィルハーモニー交響楽団が入り、話題となりました。平成24年度の関西公演も大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏となります。

演目選定にあたって

“イタリア・オペラにオペラの原点を置く考え方は不動のもの。オペラはやはり、声の饗宴であることが大変重要だ”。こう考える尾高芸術監督任期3シーズン目の演目選定では、名実ともに高い人気を誇るヴェルディ、プッチーニのみならず、素晴らしい作品を世に送り出した他の作曲家たちも取り上げます。イタリア語で“美しい声のオペラ”を意味するベルカント・オペラの代表作でもあるドニゼッティの傑作『愛の妙薬』。ロッシーニやベッリーニと並び19世紀のイタリア・オペラにおける重要人物で、ドニゼッティなくしてヴェルディも、プッチーニも語ることはできません。このプロダクションは、2009年にリエヴィの演出で新制作されたものです。『トリスタンとイゾルデ』の恋話を聞いた青年ネモリーノが、村一番の美人アディーナへの恋に目覚め奮闘する物語。9メートルもある本や文字、実物大の小型飛行機などを舞台上に登場させながら、遊び心と的確な心理描写で好評を博したプロダクションです。ベルコーレ役には11年高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演)の同役で高校生たちの心をつかんだ成田博之が本公演の舞台に立ちます。尾高芸術監督は、新国立劇場第二代オペラ芸術監督でもある故五十嵐喜芳氏と何度も共演した作品で、氏のアリア〈人知れぬ涙〉の名唱が多くの人々の心に焼き付いている、思い出深い名作でもあると語っています。

作品解説

伝統的なオペラ・ブッフアの喜劇の世界に、ロマンチックな哀愁のメロディを盛り込んだことで多くの人の共感を勝ち取ったドニゼッティの最高傑作『愛の妙薬』。他にも『ランメルモールのルチア』など70ものオペラを作曲していますが、大成功を収めた1832年の初演は、“音楽は最初から最後まで美しい”“ドニゼッティ万歳”と新聞各紙で絶賛を浴び、一躍大人気作品として1ヶ月連続上演されました。恋心を思うように伝える事が出来ない主人公ネモリーノの判りやすい人物像に加えて、ヒロインであるアディーナの賢さや心が揺れ動くさまが、メロディの力で素直に伝わってきます。ネモリーノの名アリア〈人知れぬ涙〉が聴きどころになるのは勿論のこと、敵役の軍曹ベルコーレの明るい持ち味、ドゥルカマーラの軽妙なキャラクターなどドニゼッティの音楽の冴えを実感できる音楽が随所にちりばめられ、合唱のきびきびした歌声も舞台を大いに盛り上げます。物語の伏線として、服毒自殺を図ろうとしたが、毒薬とすり替えられた愛の媚薬によって激しい恋に落ちる『トリスタンとイゾルデ』の物語が使われています。

あらすじ

バスク地方の農村。村人たちが集い、農場の娘アディーナはひとり本を読んでいる。青年ネモリーノは、彼女に恋しているが見向きもされない。軍曹のベルコーレもアディーナに目を留める。インチキ薬売りのドゥルカマーラが村にやってきて、ただのワインを一日後に効き目が出る“愛の妙薬”（惚れ薬）と偽りネモリーノに売りつける。軍曹がアディーナに“指令で別の土地に移動することになってしまった。今日中に結婚しよう”と告げる。ドゥルカマーラから買った惚れ薬の効果が出る前に、アディーナを恋敵に奪われまいとして、結婚を1日だけ待ってほしいと懇願するネモリーノをベルコーレが罵る。ネモリーノはひとり、インチキ薬売りに助けを求める。結婚を控えたアディーナと軍曹の祝いの席。ドゥルカマーラは花嫁を相手に余興の芝居を行う。彼女は、ネモリーノが見当たらないことに気づく。一方、ネモリーノは高価な妙薬の代金に充てるため、ベルコーレに入隊を志願する。そこに村娘ジャンネットが現れ、ネモリーノに莫大な遺産が転がり込んだと噂する。これを知らないネモリーノは、突然もてはやされたのは薬の効き目だと勘違い。アディーナは、ネモリーノが自分のために軍隊に入ったと聞き、その強い愛情に心を動かされ、ネモリーノの入隊契約書を買戻す。ネモリーノも彼女の本心を悟って名アリア〈人知れぬ涙〉を歌う。本心を打ち明けた二人は結ばれ、ベルコーレは潔く二人を祝福する。村を去っていくドゥルカマーラを、一同がにぎやかに見送る。

G.ドニゼッティ
愛の妙薬

L'elisir d'amore / Gaetano Donizetti

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………	城谷正博
Conductor	Joya Masahiro
演出……………	チェーザレ・リエヴィ
Production	Cesare Lievi
美術……………	ルイジ・ペーレゴ
Scenery Design	Luigi Perego
衣裳……………	マリーナ・ルクサルド
Costume Design	Marina Luxardo
照明……………	立田雄士
Lighting Design	Tatsuta Yuji
アディーナ……………	光岡暁恵
Adina	Mitsuoka Akie
ネモリーノ……………	大槻孝志
Nemorino	Otsuki Takashi
ベルコーレ……………	成田博之
Belcore	Narita Hiroyuki
ドゥルカマーラ……………	鹿野由之
Dulcamara	Shikano Yoshiyuki
ジャンネッタ……………	九嶋香奈枝
Giannetta	Kushima Kanae
合唱……………	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽……………	大阪フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Osaka Philharmonic Orchestra

2012年10月24日(水) 1:00
25日(木) 2:30
尼崎市総合文化センター アルカイックホール

【チケット料金(税込)】
全席指定：2,100円(高校生のみ)
当日料金：2,100円(高校生以下) / 4,200円(一般・大人)

ドン・ジョヴァンニ (演奏会形式)

Don Giovanni [~CONCERT by Cover Singers~]

中劇場 | 1回公演 | 全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

初 演：1787年10月29日 プラハ国立劇場

作 曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791)

台 本：ロレンツォ・ダ・ポンテ

新国立劇場オペラ公演には、出演するソリストの全ての役柄にカバー歌手がキャスティングされています。カバー歌手は、本役歌手と同様、事前の勉強をし、稽古から公演までいかなるアクシデントにも対応できるよう本役歌手の控えとしてスタンバイしますが、本役歌手にトラブルがない限り、舞台に立つことはありません。日本のオペラハウスで、日本人歌手の活躍の場は必要不可欠と考える尾高芸術監督は、日本を代表するオペラ歌手たちが、カバー歌手として新国立劇場オペラ公演を支えていること、そして、日本人歌手たちの実力をお客様にも知っていただくために、2011年5月に『コジ・ファン・トゥッテ』カバー歌手の歌唱の場を演奏会形式で新規企画しました。この公演は、充実した演奏に対する評価はもとより、オペラ劇場よりも歌手に近い客席で音楽に集中できるため、いつもと違ったオペラの楽しみ方ができると大好評を博しました。今回も、日本人の得意とするモーツァルトのアンサンブル・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』でカバー歌手たちが素晴らしい演奏を聴かせてくれることでしょう。どうぞご期待ください。

作品解説

モーツァルトはウィーンでの第1作『後宮からの逃走』によってオペラの分野でもかなりの成功を収めていましたが、当時オペラ作曲家として認められるためには、イタリア・オペラで成功する必要がありました。そこで、満を持してボーマルシェの喜劇『フィガロの結婚』を宮廷詩人ダ・ポンテの台本で上演、大成功を収めました。円熟期に入ったモーツァルトが次に選んだ作品が『ドン・ジョヴァンニ』で、前作と同じダ・ポンテが台本を書きました。主人公のドン・ファン（イタリア語でドン・ジョヴァンニ）は、14世紀頃に実在したとされるスペインの伝説的な人物で、モリエールの性格喜劇の三大傑作の一つともいわれる名作『ドン・ジュアンまたは石像の客』（1665）やバイロンの詩など、数々の作品に登場しています。その音楽は、主人公のドン・ジョヴァンニの性格に負けず劣らず、官能とみなぎる力に溢れています。スタンダードは「『ドン・ジョヴァンニ』を聴くためなら、百里の道でも歩いて行く」と称え、ベートーヴェンは、“不道德なオペラ”と考えましたが、内容共々モーツァルトのオペラの中でも特に傑出した最重要作と評価されています。

あらすじ

舞台はヴェネツィア（オリジナルは16世紀頃のセビリア）。世界各地で2065人にも及ぶ女性を次々ものにし、従者のレポレッロがそれを「恋人のカタログ」にしてしまうほどの色男ドン・ジョヴァンニが、ある晩、騎士長の娘ドンナ・アンナのもとに忍び込む。ところが、ドンナ・アンナが騒いだため、父親の騎士長に運悪く見つかかり、彼を刺し殺してしまう。その後も、三日間だけ結婚して捨てた女ドンナ・エルヴィーラに追い回されたり、結婚直前の村娘ツェルリーナを口説いたり、性懲りも無く悪行を重ね、放蕩の限りを尽くすが、反省の色は全くない。ツェルリーナをもものにしようと、自分の館の舞踏会に村人を招くが、ドン・ジョヴァンニへの怒りに燃えるドンナ・エルヴィーラ、父親の敵を取ろうとするドンナ・アンナ、その婚約者ドン・オッターヴィオが仮面をつけて現れ、ドン・ジョヴァンニの悪行を暴く。ほうほうの体で逃げ出したドン・ジョヴァンニとレポレッロが行きついた先は墓場。そこで、ドン・ジョヴァンニに殺された騎士長の石像が、彼の前に現われる。ドン・ジョヴァンニは不敵にも石像を晚餐に招く。やってきた石像に改悛を迫られるが、あくまでも拒んだため、突然床が割れて、地獄に落とされてしまう。



〈参考〉2011年5月『コジ・ファン・トゥッテ』〈演奏会形式〉より

W.A. モーツァルト

ドン・ジョヴァンニ (演奏会形式)

Don Giovanni [~CONCERT by Cover Singers~] / Wolfgang Amadeus Mozart

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

芸術監督……………尾高忠明
Artistic Director Oraka Tadaaki

指揮……………石坂 宏
Conductor Ishizaka Hiroshi

ドン・ジョヴァンニ……………与那城 敬
Don Giovanni Yonashiro Kei

騎士長……………大澤 建
Il Commendatore Osawa Ken

レポレット……………北川辰彦
Leporello Kitagawa Tatsuhiko

ドンナ・アンナ……………吉田珠代
Donna Anna Yoshida Tamayo

ドン・オッターヴィオ……………鈴木 准
Don Ottavio Suzuki Jun

ドンナ・エルヴィーラ……………佐藤康子
Donna Elvira Sato Yasuko

マゼット……………町 英和
Masetto Machi Hidekazu

ツェルリーナ……………鈴木愛美
Zerlina Suzuki Manami

オーケストラ……………東京フィルハーモニー交響楽団による弦楽アンサンブル
Orchestra String Ensemble by Tokyo Philharmonic Orchestra member

※合唱は出演いたしません。

2012年4/3 (火) 2:00

中劇場

【チケット料金(税込)】

A : 6,300円・B : 4,200円

発売中

OPERA

公演一覧

開場記念公演～2011/2012シーズン

★=新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU★	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	97.10/10
	ローエングリン★	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	97.11/22
	アイーダ★	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバロ	フランコ・ゼッフィレッリ	98.1/15
1998/ 1999	蝶々夫人★	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	98.4/8
	魔笛★	W.A.モーツァルト	大野和士	ミハエル・ハンベ	98.5/6
	ナブッコ★	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	98.6/18
	アラベッラ★	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	98.9/19
	セビリアの理髪師★	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	98.10/9
	ヘンゼルとグレーテル★	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	98.11/27
	カルメン★	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	99.1/19
	天守物語★	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	99.2/13
	こうもり★	J.シュトラウスII世	北原幸男	寺崎裕則	99.4/21
	罪と罰★	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	99.6/18
1999/ 2000	仮面舞踏会★	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	99.9/21
	マノン・レスコー★	G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	99.11/6
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュテイ	栗山昌良	99.12/18
	ドン・ジョヴァンニ★	W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	00.1/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロリ	栗園 淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	00.2/20
	沈黙★	松村禎三	星出 豊	中村敬一	00.3/16
	サロメ★	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファーディング	00.4/11
	ドン・キホット★	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	00.5/7
リゴレット★	G.ヴェルディ	レナート・バルンボ	アルベルト・ファッシーニ	00.6/11	
2000/ 2001	トスカ★	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	00.9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミハエル・ハンベ	00.10/10
	エウゲニ・オネーギン★	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ボクロフスキー/ヴェラ・カルパチョフ	00.10/30
	青ひげ公の城★	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	00.11/24
	夕鶴★	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	00.12/2
	イル・トロヴァトーレ★	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	01.1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロリ	アルベルト・ファッシーニ	01.2/5
	ラインの黄金★	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォナー	01.3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	01.5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	01.6/7
マノン★	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ボネル	01.7/5	
2001/ 2002	トゥーランドット★	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	01.9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	01.11/1
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	01.11/16
	ドン・カルロ★	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	01.12/6
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	02.1/10
	忠臣蔵★	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	02.1/25
	ウェルテル★	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	02.2/21
	ワルキューレ★	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォナー	02.3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファーディング	02.5/1
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	02.5/2
カルメン★	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティアー	02.6/7	
2002/ 2003	椿姫★	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	02.9/5
	ルチア★	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴィンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァーリニ	02.10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロリ	栗園 淳	02.10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレラ	アルベルト・ファッシーニ	02.11/21
	ナクソス島のアリアドネ★	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	02.12/12
	光★	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	03.1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	03.1/31
	ジークフリート★	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォナー	03.3/27
	ラ・ボエーム★	G.プッチーニ	アントニオ・ピロリ	栗園 淳	03.4/19
	オテロ★	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	03.6/10
アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	03.9/14	

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2003/ 2004	フィガロの結婚*	W.A. モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	03.10/10
	トスカ	G. プッチーニ	ジェラルド・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	03.11/9
	ホフマン物語*	G. オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	03.11/28
	鳴神／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	04.1/30
	スペインの燦き*	M. ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	04.2/18
	サロメ	R. シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファールディング	04.2/27
	神々の黄昏*	R. ワグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	04.3/26
	マクベス*	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	04.5/13
	ファルスタフ*	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	04.6/25
カルメン	G. ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティエア	04.6/28	
2004/ 2005	カヴァリア・ルスティカーナ 遣化師*	P. マスカーニ / R. レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	04.9/9
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	井上道義	栗國 淳	04.9/25
	エレクトラ*	R. シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	04.11/11
	椿姫	G. ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	04.11/22
	マクベス	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	05.1/17
	ルル*	A. ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	05.2/8
	おさんー「心中天網島」より*	久保摩耶子	神田慶一	栗國 淳	05.2/25
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A. モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	05.3/21
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	05.4/7
	フィデリオ*	L.v. ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッシ	05.5/28
	蝶々夫人*	G. プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	05.6/24
2005/ 2006	ニュルンベルクのマイスタージンガー*	R. ワグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	05.9/14
	セビリアの理髪師*	G. ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E. ケップリンガー	05.10/14
	アンドレア・シェニエ*	U. ジョルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	05.11/20
	ホフマン物語	J. オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	05.11/27
	魔笛	W.A. モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	06.1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A. モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	06.2/4
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	06.2/17
	運命の力*	G. ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	06.3/15
	カヴァリア・ルスティカーナ 遣化師	P. マスカーニ / R. レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイージ	グリシャ・アサガロフ	06.4/5
	こうもり*	J. シュトラウスII世	ヨハネス・ヴァルトナー	ハインツ・ツェドニク	06.6/14
2006/ 2007	ドン・カルロ*	G. ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレッシ	06.9/7
	イドメネオ*	W.A. モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	06.10/20
	フィデリオ	L.v. ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレッシ	06.11/30
	セビリアの理髪師	G. ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E. ケップリンガー	06.12/1
	さまよえるオランダ人*	R. ワグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	07.2/25
	運命の力	G. ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチャーニ	エミリオ・サージ	07.3/15
	蝶々夫人	G. プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	07.3/22
	西部の娘*	G. プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	07.4/15
	ばらの騎士*	R. シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	07.6/6
	ファルスタフ	G. ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	07.6/13
	タンホイザーと ヴァルトブルクの歌合戦*	R. ワグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	07.10/8
2007/ 2008	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	07.10/18
	カルメン*	G. ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	07.11/25
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	マウリツィオ・バルバチャーニ	栗國 淳	08.1/20
	サロメ	R. シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファールディング	08.2/3
	黒船 一夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	08.2/22
	アイーダ	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼッフィレッリ	08.3/10
	魔弾の射手*	C.M.v. ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	08.4/10
	軍人たち*	B.A. ツインマーメン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	08.5/5
	椿姫	G. ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	08.6/5

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2008/ 2009	トゥーランドット*	G. プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	08.10/1
	リゴレット	G. ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	08.10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A. モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	グリシャ・アサガロフ	08.12/5
	蝶々夫人	G. プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	09.1/12
	こもり	J. シュトラウスII世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	09.1/27
	ラインの黄金	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	09.3/7
	ワルキューレ	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	09.4/3
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D. ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	09.5/1
	チェネントラ*	G. ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン=ピエール・ボネル	09.6/7
	修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	09.6/25
2009/ 2010	オテロ*	G. ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	09.9/20
	魔笛	W.A. モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミハエル・ハンベ	09.10/29
	ヴォツェック*	A. ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	09.11/18
	トスカ	G. プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ=ディアツ	09.12/2
	ジークフリート	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	10.2/11
	神々の黄昏	R. ワグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	10.3/18
	愛の妙薬*	G. ドニゼッティ	バオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	10.4/15
	影のない女*	R. シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	10.5/20
	カルメン	G. ビゼー	マウリツィオ・バルバチーニ	鶴山 仁	10.6/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	10.6/24
2010/ 2011	アラベッラ*	R. シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	10.10/2
	フィガロの結婚	W.A. モーツァルト	ミハエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	10.10/10
	アンドレア・シェニエ	U. ジョルダノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	10.11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R. ワグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	10.12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	11.2/4
	椿姫	G. ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	11.2/14
	マノン・レスコー*(公演中止)	G. プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R. シュトラウス	マンフレッド・マイヤー-ホフナー	ジョナサン・ミラー	11.4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A. モーツァルト	ミゲル・ゴメス=マルティネス	ダミアノ・ミキエレット	11.5/29
	蝶々夫人	G. プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	11.6/6
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G. ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペーターズ	11.10/2
	サロメ	R. シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファーディング	11.10/9
	ルサルカ*	A. ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	11.11/23
	こもり	J. シュトラウスII世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	11.12/1
	ラ・ボエーム	G. プッチーニ	コンスタンティン・トリンクス	栗國 淳	12.1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	12.2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	12.3/8
	オテロ	G. ヴェルディ	ジャン・レイサム=ケーニック	マリオ・マルトーネ	12.4/1
	ドン・ジョヴァンニ	W.A. モーツァルト	エンリケ・マツォーラ	グリシャ・アサガロフ	12.4/19
	ローエングリン*	R. ワグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	12.6/1

Memo
